

2025年度

サレジオ工業高等専門学校

情報公開

(3. 財務情報)

2025年9月現在

(1)前年度の収支計算書

法人名：育英学院

## 資金収支計算書

令和6年 4月 1日から

令和7年 3月 31日まで

&lt;総括表&gt;

(単位 円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	1,119,598,600	1,117,210,990	2,387,610
手数料収入	9,193,000	9,139,000	54,000
寄付金収入	11,267,000	14,089,317	▲ 2,822,317
補助金収入	499,305,750	508,504,284	▲ 9,198,534
国庫補助金収入	132,201,000	132,201,200	▲ 200
地方公共団体補助金収入	367,104,750	376,303,084	▲ 9,198,334
資産売却収入	0	0	0
付随事業・収益事業収入	50,062,000	53,871,919	▲ 3,809,919
受取利息・配当金収入	671,707	745,002	▲ 73,295
雑収入	116,728,091	117,483,990	▲ 755,899
借入金等収入	40,789,000	40,789,000	0
前受金収入	49,385,000	53,095,000	▲ 3,710,000
その他の収入	64,200,350	64,045,753	154,597
資金収入調整勘定	▲ 184,129,017	▲ 190,664,729	6,535,712
前年度繰越支払資金	1,583,138,531	1,583,138,531	
収入の部合計	3,360,210,012	3,371,448,057	▲ 11,238,045
支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	1,181,530,129	1,179,090,955	2,439,174
教育研究経費支出	346,370,366	329,527,725	16,842,641
管理経費支出	114,209,304	110,257,621	3,951,683
借入金等利息支出	1,861,000	1,860,817	183
借入金等返済支出	22,459,000	22,459,000	0
施設関係支出	44,795,000	40,352,295	4,442,705
設備関係支出	21,036,700	20,153,631	883,069
資産運用支出	59,589,000	61,963,261	▲ 2,374,261
その他の支出	42,447,552	35,653,743	6,793,809
〔予備費〕	(19,480,000) 5,520,000		5,520,000
資金支出調整勘定	▲ 53,107,019	▲ 55,721,397	2,614,378
翌年度繰越支払資金	1,573,498,980	1,625,850,406	▲ 52,351,426
支出の部合計	3,360,210,012	3,371,448,057	▲ 11,238,045

## 活動区分資金収支計算書

令和6年 4月 1日から

令和7年 3月 31日まで

&lt;総括表&gt;

(単位 円)

		科 目	金 額	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	1,117,210,990	
		手数料収入	9,139,000	
		経常費等補助金収入	508,504,284	
		教育活動資金収入計	1,813,669,500	
	支出	人件費支出	1,179,090,955	
		教育研究経費支出	329,527,725	
		調整勘定等	▲ 64,245,265	
		科 目	金 額	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備補助金収入	6,630,000	
		施設整備等活動資金収入計	9,475,814	
	支出	施設関係支出	40,352,295	
		設備関係支出	20,153,631	
		施設整備等活動資金支出計	61,963,261	
			差引	▲ 106,363,373
			調整勘定等	▲ 872,208
		施設整備等活動資金収支差額	▲ 107,235,581	
		科 目	金 額	
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	40,789,000	
		小計	46,173,499	
		受取利息・配当金収入	745,002	
		その他の活動資金収入計	46,918,501	
	支出	借入金等返済支出	22,459,000	
		小計	25,658,162	
		借入金等利息支出	1,860,817	
		調整勘定等	0	
		支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	42,711,875	
		前年度繰越支払資金	1,583,138,531	
		翌年度繰越支払資金	1,625,850,406	

事業活動収支計算書  
令和6年 4月 1日から  
令和7年 3月 31日まで

<総括表>

(単位 円)

		科 目	予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	1,119,598,600	1,117,210,990	2,387,610
		手数料	9,193,000	9,139,000	54,000
		寄付金	4,767,000	8,520,765	▲ 3,753,765
		経常費等補助金	497,700,750	508,504,284	▲ 10,803,534
		国庫補助金	132,201,000	132,201,200	▲ 200
		地方公共団体補助金	365,499,750	376,303,084	▲ 10,803,334
		付随事業収入	50,062,000	53,871,919	▲ 3,809,919
		雑収入	116,740,086	117,483,990	▲ 743,904
		教育活動収入計	1,798,061,436	1,814,730,948	▲ 16,669,512
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
人件費		1,182,321,852	1,185,430,704	▲ 3,108,852	
教育研究経費		527,300,366	507,217,607	20,082,759	
管理経費		149,518,304	142,501,363	7,016,941	
徴収不能額等		0	0	0	
教育活動支出計		1,859,140,522	1,835,149,674	23,990,848	
教育活動収支差額		▲ 61,079,086	▲ 20,418,726	▲ 40,660,360	
教育活動外収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		受取利息・配当金	671,707	745,002	▲ 73,295
		その他の教育活動外収入	0	0	0
	教育活動外収入計		671,707	745,002	▲ 73,295
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		借入金利息	1,861,000	1,860,817	183
		その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計		1,861,000	1,860,817	183
教育活動外収支差額		▲ 1,189,293	▲ 1,115,815	▲ 73,478	
経常収支差額					
特別収支	事業活動収入の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	8,105,000	6,733,629	1,371,371
	特別収入計		8,105,000	6,733,629	1,371,371
	事業活動支出の部	科 目	予 算	決 算	差 異
		資産処分差額	4,979,000	3,562,609	1,416,391
		その他の特別支出	0	0	0
特別支出計		4,979,000	3,562,609	1,416,391	
特別収支差額		3,126,000	3,171,020	▲ 45,020	
〔予備費〕		(17,109,000) 7,891,000		7,891,000	
基本金組入前当年度収支差額		▲ 67,033,379	▲ 18,363,521	▲ 48,669,858	
基本金組入額合計		1,002,363	▲ 22,139,371	23,141,734	
当年度収支差額		▲ 66,031,016	▲ 40,502,892	▲ 25,528,124	
前年度繰越収支差額		▲ 2,623,024,515	▲ 2,623,024,515	0	
基本金取崩額		0	49,010,212	▲ 49,010,212	
翌年度繰越収支差額		▲ 2,689,055,531	▲ 2,614,517,195	▲ 74,538,336	
(参考)					
事業活動収入計		1,806,838,143	1,822,209,579	▲ 15,371,436	
事業活動支出計		1,873,871,522	1,840,573,100	33,298,422	

(2)前年度末の貸借対照表

## 貸借対照表

令和7年 3月 31日

&lt;総括表&gt;

(単位 円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	10,303,131,457	10,403,329,610	▲ 100,198,153
有形固定資産	8,960,124,688	9,112,240,530	▲ 152,115,842
特定資産	1,338,695,049	1,286,682,671	52,012,378
その他の固定資産	4,311,720	4,406,409	▲ 94,689
流動資産	1,783,268,731	1,668,435,022	114,833,709
資産の部合計	12,086,400,188	12,071,764,632	14,635,556
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	677,255,567	657,285,818	19,969,749
流動負債	167,387,949	154,358,621	13,029,328
負債の部合計	844,643,516	811,644,439	32,999,077
純資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
基本金	13,856,273,867	13,883,144,708	▲ 26,870,841
第1号基本金	13,735,759,648	13,762,630,489	▲ 26,870,841
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	0	0	0
第4号基本金	120,514,219	120,514,219	0
繰越収支差額	▲ 2,614,517,195	▲ 2,623,024,515	8,507,320
純資産の部合計	11,241,756,672	11,260,120,193	▲ 18,363,521
負債及び純資産の部合計	12,086,400,188	12,071,764,632	14,635,556

### (3)前年度末の財産目録

令和6年度

# 財 産 目 録

令和7年3月31日

学校法人 育英学院

# 財 産 目 録

令和7年3月31日現在

科 目	年 度 末	
一 資産額		
(一) 基本財産		
1 土地(団地)		
サレジオ工業高等専門学校	40,528.72 m <sup>2</sup>	3,765,569,100 円
サレジオ中学校・小学校	7,911.34 m <sup>2</sup>	30,402,472 円
目黒サレジオ幼稚園	5,121.00 m <sup>2</sup>	24,232,572 円
足立サレジオ幼稚園	1,396.57 m <sup>2</sup>	219,135,799 円
町田サレジオ幼稚園	4,935.79 m <sup>2</sup>	529,965,775 円
	小計	59,893.42 m <sup>2</sup> 4,569,305,718 円
2 建物		
(1) 校舎	24,177.27 m <sup>2</sup>	2,511,597,990 円
(2) 体育館	2,818.06 m <sup>2</sup>	494,435,510 円
(3) 学生寮	1,122.99 m <sup>2</sup>	82,190,593 円
(4) その他	2,152.60 m <sup>2</sup>	242,796,675 円
	小計	30,270.92 m <sup>2</sup> 3,331,020,768 円
3 図書	58,561 冊	166,336,208 円
4 教具・工具・備品	10,106 点	158,737,578 円
	合 計	8,225,400,272 円
(二) 運用財産		
1 現金・預金		
現金	現金手元有高	3,854,250 円
普通預金		940,815,929 円
定期預金		681,180,227 円
	小計	1,625,850,406 円
2 積立金		1,338,695,049 円
3 有価証券		
	eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	1,571,699 円
4 不動産		
土地	12,575.36 m <sup>2</sup>	442,095,954 円
建物	1892.74 m <sup>2</sup>	238,964,634 円
構築物	163 点	48,581,500 円
5 未収入金		123,953,707 円
6 長期貸付金(奨学金等)		117,000 円
7 短期貸付金		540,000 円
8 前払金		234,614 円
9 立替金		239,804 円
10 仮払金		71,200 円
11 研修旅行預り資産		32,379,000 円
12 その他		7,705,349 円
	運用財産計	3,860,999,916 円
	資産の部合計	12,086,400,188 円

二	負債額		
1	固定負債		
(1)	長期借入金		
	日本私立学校振興・共済事業団	74,970,000	円
	(財)東京都私学財団	400,000	円
	りそな銀行	117,348,000	円
(2)	退職給与引当金	484,537,567	円
2	流動負債		
(1)	短期借入金	23,334,000	円
(2)	前受金	53,095,000	円
(3)	未払金	52,716,976	円
(4)	預り金	5,862,973	円
(5)	研修旅行預り金	32,379,000	円
	負債の部合計	844,643,516	円
	正味財産	11,241,756,672	円

#### (4)前年度の事業報告書

令和6（2024）年度

令和6（2024）年4月 1日から

令和7（2025）年3月31日まで

事業報告

学校法人育英学院

# 令和6年度教育目標・財務関係予算方針

## 理事長・理事会

### 事業計画

#### 【1】 常務理事中心のワーキンググループの運営

以下の案件について、ワーキンググループを継続して行っていく。このワーキンググループでは今年度は特に以下の点について重点的に取り組む。

1. 育英学院設置の幼稚園において、運営形態の再検討を実施
2. 目黒サレジオ幼稚園の園舎建て替えについて、遅滞なく進めていく
3. 足立サレジオ幼稚園の増築の実施

➡一部事業所での施設型給付の検討実施、足立サレジオ幼稚園の増築を実施

ワーキンググループで取り扱ったことは常任理事会及び理事会の際に報告をし、理事会でより必要な検討を行う。

## 法人本部

### 事業計画

#### 一般の方針

##### 1. 人的配置について

法人本部では法人全体の人事計画について、人事企画の性質を持ち合わせて行っていくこととする。高専においては三役を中心とした人事計画を前提としつつ、運営上必要に応じて関わりを持っていく。また幼小中については、事業所ごとが小規模な運営形態な為、中長期的な人事計画や管理職の人事計画を事業所長のみで考えることが困難であることから、法人本部と連携して人事企画の部分を補っていくことを明確にする。

➡各事業所における人事計画について、常任理事会を中心に検討実施。

##### 2. 大型施設設備等について

運営に影響のある大規模な施設設備の購入・更新等について、現場と連携しながら事業計画の段階から携わっていく。また大型工事等については理事会や常任理事会へ報告を行いながら、運営と現場の意思疎通を図り進めていけるように努めていく。

➡サレジオ工業高等専門学校におけるLED工事について業者との折衝を中心に主導実施。

### 3. 財務状況の把握について

育英学院全体の財務状況把握は従来通り行っていくが、今後は各事業所に財務状況の確認を行い、事業所長を含めた管理職と経営状況の確認をする機会を設けていくことを検討する。

**➡財務状況について各事業所長との共有は未実施。**

### 4. 内部監査のチーム編成と強化、監事との連携を図る（継続）

内部監査と監事監査を同時期に行い、各事業所の準備負担の軽減を考慮する。また、事業所からの要望を受けて、監事監査を夏期に小規模な実施を検討することを検討する。監事のヒアリング時にスムーズな進行を行うために法人本部職員が同席をする。これにより、運営レベルの問題点と実務レベルの問題点を明確に洗い出すことを目的とする。内部監査については監事監査のヒアリングと並行して書類監査を行う。また会計の監査のみならず、経営面や運営面の観点からの監査を模索する。さらに、日常業務の中で各所の決済手順の状況や管理体制について確認を行い、適切な運営体制を整えているか確認を行っていく。

**➡監事監査との一体実施。監事監査は充実の一方、法人本部による内部監査機能としては不十分。**

### 5. 規則・規程の見直しと整理の準備を行う

規則・規程は運営上、必要なものであるが、時代の流れに併せて、改正することが必須である。しかし、現行の規則・規程について把握困難なものが多数あることから、第一に現状把握を行い、規則・規程の整備に向けて準備を進める1年間とする。また齟齬が生じているものについて運営上問題があれば適宜改正も行っていく。

**➡私立学校法の改正に伴う寄附行為変更の実施。その他周辺規程の整備を実施。従来の規則の整備については未実施。**

### 6. 法人本部業務の強化のために

法人内の事務経理のみならず様々な事務分野での技術力を高めるため、また最近の社会状況に乗り遅れることのないように法人本部職員を研修会に積極的に参加するように促す。また研修会で得た情報を必要に応じて各学校の事務職員へと伝達する（継続）。

また職員の採用について随時検討を行い、学校法人業務と同時に修道会運営に理解ある法人本部の構築を進めていく。

**➡法人本部の採用を実施。学校事務経験者且つ信頼性において十分な人材の採用を実施。**

今後、法人本部として財務的支援ができるためにも本部負担金について継続していく。

## 本部負担金

	高専(800人)	小中(160人)	幼稚園(430人)	前年度比(同数の場合)
令和6年度	25,000円	25,000円	25,000円	0円

➡財務状況を考慮し、幼稚園は20,000円とした。

## 7. 人件費

- ① 役員報酬及び理事長報酬は前年度と同じ処遇とする。
- ② 事務担当職員の賞与は、法人全体の月数を参考にする。

➡予定通り実施。

## 8. 機器備品等について

法人室に設置しているシュレッダーについて、耐用年数を大幅に超えて運用を行っている。故障する可能性が出てきている状況からも事前に調査を行い、シュレッダーの更新を検討する。

予算： 50,000円

➡予定通り購入。

町田サレジオ幼稚園の幼稚園バスについて、耐用年数が大幅に過ぎていることから購入することが決まっているが資金繰りについて、調整が行われている。法人本部として購入することにより外部借入をせずにキャッシュフローを回していく。

予算：5,083,320円(本体代のみ法人本部とし、経費を幼稚園とする)

内訳：本体代5,083,320円、諸経費266,680円

➡予定通り購入。

## 9. その他具体的事業計画

- ・各事業所との連携

各事業所の校長・園長ならびに事務担当者等と緊密な連携をとり、互いに必要な情報の共有を行っていく。現在、各事業所を訪問する場合は以下の通りである。

- ① 監事監査・内部監査実施時
- ② 会計士による会計監査実施時
- ③ 人事・労務に特別な問題がある場合
- ④ 建築や増築等、建物等に特別な変更を検討する場合
- ⑤ 特別な事情があるとき

これ以外に、法人本部と現場が強固な連携をとれるように、意見共有のタイミング等を検討する。

# サレジオ工業高等専門学校

## 令和 6 年度 教育研究計画の概要

今年度の校長目標は「160 入学から 160 卒業まで」とし、定員 160 名を何としてでも達成し、さらに退学者を減少させる努力を継続します。「選ばれるサレジオ高専」を強く意識し、魅力ある教育活動を展開して、本校の価値や魅力を向上させることで定員数を確保するための取り組みを実施し、在籍者数を 800 名に戻すことを目指します。

## 令和 6 年度重点施策

### (1) 教育・研究力の強化

令和 6 年度は第 6 期中期計画の目標達成を目指し、以下を重点施策として取り組みました。

#### <1> 教職員によるアシステンツァの実践強化

学生や保護者との関わり方を学ぶために、3 月 3 日に外部講師を招聘して合理的配慮の必要な学生への関わりについて学ぶ機会を設けました。発生したトラブルを解決するために教職員間での共通認識事項を共有する方法を、本校で起こった事例をもとに学びました。

#### <2> 退学者の減少

増加した退学者の数を減少させます。令和 6 年度は 24 人でした。昨年度が 35 人だったことを考えると人数は減少しましたが、まだまだ十分とはいえません。学生支援センターが中心となって合理的配慮の必要な学生をはじめカウンセリングの必要な学生や家庭環境等でサポートの必要な学生の支援に柔軟に対応したことが改善した要因の一つです。配慮の必要な学生への対応を強化して、さらに退学者を減少させます。

#### <3> 教育の質保証と向上

1 学科、複数コース体制の準備を行いました。新体制が機能するように、教学マネジメント体制をあらたにし、研究、産学連携、補助金の獲得に向けた業務を統括するイノベーション・commons を立ち上げました。

## (2) 社会貢献力の強化

社会貢献力の向上については令和 5 年度に引き続き以下についてさらなる進展を目標としました。

### <1> 地域社会との連携

地域連携強化のために小中学生のための特別授業を公開し、依頼された学校に教員を派遣しました。また相模原市・座間市の主催する市民大学の講座へ協力し、学校施設の市民開放を可能な限り進め、地域市民に対する文化拠点となることを目指しました。

### <2> 産学連携の推進

大学コンソーシアム八王子に参加し、サレジオ高専の存在感を示す場としました。地域交流をさらに積極的に推進し、地域に立地する企業や自治体との交流・連携を密にし、社会実装教育を念頭においた連携による他高専に勝る独自性を強化して、本高専の地域における貢献度をあげる点は不十分でした。

### <3> 学校広報の推進

サレジオ高専の存在がさらに認知されるように発信力を強める取り組みを行いました。広報を通じて学内にある施設を使用して、本校が地域、企業との交流の場となるようにしました。

## (3) 経営力の強化

経営力の向上については令和 5 年度に引き続き以下についてさらなる進展を目標としました。

### <1> 教職員の業務遂行能力の向上

SD (Staff Development) システムを運用し、必要に応じて研修を実施しました。研修だけでなくさまざまな部署での業務の内容の見直し、必要とされる能力の開発、向上に向けた動きを展開し人財育成を図ること、また昨年度実施されなかった SMS (サレジオ・マネジメントシステム) の見直しと再構築を行うことは十分にできませんでした。

### <2> 受験者数の増加

令和 7 年度生募集では 138 名の入学者になりました。160 名定員確保ができませんでした。新たに地方入学試験、編入学試験を実施し、令和 6 年度の 1 学期の成績で受験を認めるなどの新たな取り組みを実施しましたが、まだ充分とはいえません。令和 7 年度の募集活動に令和 6 年度の反省点を活かします。

### <3> 財務計画

学生の在籍数が減少したために、今年度も収入の減少があり、予算も各部署 | 割強の削減を行って予算立てをしたために、内部留保資金の積み上げができませんでした。さらなるペーパーレス化を行うなど経営 DX をこれまで以上に意識的に取り組み、補助金等の獲得を行い、次年度は内部留保資金を確保します。

### (4) 特記事項

#### <1> 司牧目標 (サレジオミッションの実践)

サレジオ会の教育方針の基盤であるキリスト教的価値観を浸透させ、それに基づくドン・ボスコの精神の実践を強化するため以下のことを実施しました。

- ・月 2 回のチャプレン訓話
- ・モーニングトーク
- ・月例ミサ、チャペルの開放
- ・掲示板を活用した啓発

#### <2> 周年記念

- ・移転 20 周年の記念事業の実施と法人開設 90 周年に向けての準備はできていません。

## サレジオ小学校・中学校

### I. 令和6年度教育目標

#### 1. サレジオ家族ストレンナ

「ドン・ボスコの夢、わたしたちの夢」(9歳の夢から200年)

「謙遜で、強く、たくましくありなさい」という言葉は、サレジオ中学校の生活モットーと重なっています。これは、物事への取り組みを簡単にあきらめたり、必要な責任を取らずに何でも天から降って来るのを待ったりする誘惑を乗り越えることを教えています。自らの限界を知らながらも、多くの可能性があること、神がいつも共にいてくださることを頼みにできると知っている者が、「謙遜で、強く、たくましくある」ことができることを学ぶ令和6年度でありたい。

自分の目標や夢を持ち、あきらめずに、それに向かって進んでいこうとする強く素直な心を育てていく。

#### 2. 司牧部

①カトリック学校としてのアイデンティティを深めるために。

a. 祈りの機会を増やす。

週1回の全校朝礼で必ず主の祈りを唱えた。

b. 宗教行事で中学生(軽音部)が歌の伴奏で奉仕する。

軽音部はクリスマスの集いで、オルガン部は全ての宗教行事で奉仕した。

c. 掲示板などに聖句やサレジオ会的すすめなどを掲示する。

あまり実施できなかった。

d. 外に出ていく活動を模索していく。

学校周辺のごみ拾いボランティア、老人ホームへの慰問などを実施。

②信徒児童生徒と、家族がキリスト教にゆかりのある児童生徒の司牧

a. 集会を定期的に持つ。

b. 年2回程度の練成会・ミニ巡礼を実施する。

クリスマスの集いの聖劇、調布教会への巡礼などを実施。

## Ⅱ. 児童生徒募集

### 1. 在籍数

小学校	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計
令和5年度末	14	13	16	11	17	15	85
令和6年度	15	15	13	17	10	17	87
中学校	1年生		2年生		3年生		合計
令和5年度末	22		25		21		68
令和6年度	27		23		25		75
	小 中 合 計						162

### 2. 令和6年度相談会・広報

小学校 「東京都私立小学校展」、「中央線沿線私立小学校合同相談会」、  
「西武線沿線私立小学校合同相談会」、「キリスト教学校合同フェア」  
学校説明会（校内、4回）、小金井市子育て冊子  
**小金井市子育て冊子以外参加・実施。**

中学校 「東京私学第11支部合同説明会」、「東京都私学展」、  
「東京西地区私立中高進学相談会」  
学校説明会（校内、3回）  
**「東京西地区私立中高進学相談会」以外参加・実施。**

小中共通 位置情報データをもとにしたスマホ広告配信サービス。**実施せず。**

## Ⅲ. 令和6年度重点課題

### 1. ICT教育環境の整備促進

小学校中学校とも、令和6年度新入生と2年生より、一人一台端末を（学校購入貸与）。授業での使用法の研究と実践。

2. 若手教員が増えているので、サレジオ精神の浸透を図る。**各研修会へ参加し、サレジオ精神・カトリック学校の精神の向上に努めた。研修会に参加した教員が他の教員とその実りを共有していくことができるとよい。**

#### IV. 人事

##### 小学校

担任	山越夢子（教諭）
役職就任	櫻井 忍（教頭）
退職	垣内哲也（教頭）

##### 中学校

宗教科	上村幸一郎（教諭）
養護	橋本真由（教諭）
退職	越田那美子（養護）、 八木義光（保健体育、非常勤講師）、 深山光平（宗教、非常勤講師）、

#### V. 感染症対策

インフルエンザ、新型コロナウイルスに関して。原則として、すべての学校生活における制限を設けない方向でいきたいと考えているが、行事によっては、何らかの制限を設ける可能性もある。特に制限を設けた行事はなかった。

#### VI. 主な工事・修繕などの予定

- ① 樹木伐採・剪定 マンションとの接地部分の強剪定を実施した。
- ② 校舎建具修理 随時実施した。
- ③ 中庭タイル修繕 実施した。
- ④ その他

#### VII. その他

- ① 節電やペーパーレス化に意識して取り組む 教職員の意識・努力によって節電の効果が明らかに出た。

○体育祭は5年ぶりに小学校中学校合同で行うことができた。文化祭も5年ぶりに小学校中学校合同で実施し、模擬店も出すことができた。

# 目黒サレジオ幼稚園

サレジオ家族 年間目標 (Strenna 2024)

「ドン・ボスコの夢、わたしたちの夢」

## I. 教育方針

【園のことば】 きよいところ げんきなこども

### (1) 教育目標

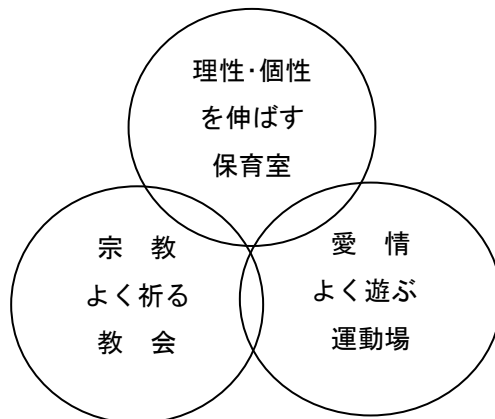
- ・キリスト教の価値観と創立者ドン・ボスコの教育理念に基づき、自然豊かな広い園庭を中心とした環境と暖かい家庭的雰囲気の中で、のびのびとした活動を通して子どもたちの心の教育に力を入れる。
- ・ドン・ボスコの教育理念である「愛情 (信頼)」「理性 (納得)」「宗教 (祈り)」を根本にして、家庭との密接な連携を通して子どもたちの成長に寄り添う。
- ・幼児自身が愛されている体験を通して自ら神と人を愛する心を身に付け、豊かな品性と国際的素養を身に付け円満な人格形成を目指し、誠実な社会人になるように育成する。

### =学年のねらい=

- <すみれ> (3歳児) 様々な環境に慣れ、園生活を楽しむ。
- <ゆり> (4歳児) 集団生活に必要な態度を身に付ける。  
互いの気持ちを伝え合いながら友達と関わる。
- <ばら> (5歳児) 状況の判断力を養う。感謝と思いやりの心を育む。  
好奇心を持ち、何事にも意欲的に取り組む。

### (2) ドン・ボスコの教育の要約

子どもを教育するには、しっかり組み合わせた輪のような3つの場所が必要である。



---- 具体的にドン・ボスコの教育における宗教教育を実践するために、以下のようなことに取り組んでいく。

- ① 日常の保育中での祈り、シスターによる宗教の時間、聖堂訪問など
- ② 行事の中で：聖母祭、クリスマス会、創立者ドン・ボスコのお祝いなど
- ③ 保護者の希望者に向けて園長による月2回の聖書と祈りの集い、その他の機会を設ける。

### (3) 教師（保育者）のあり方

1. 園の教育理念を深め、共通理解のもとに保育に取り組む。
2. 一人一人の園児に積極的に関わり、子どもの状況をよく把握する。
3. 子どもたちがのびのびと活躍できるような環境の整備を心がける。
4. 思いやりの心とけじめのある態度を、教師自らが手本となって示す。
5. 職員・園児・父母の相互間の報告、連絡、相談を密にし、常に反省する姿勢をつ。
6. 園長が毎朝礼時にカトリック、サレジオの精神を伝える短い話を行う。
7. サレジオ教職員講座の内容を職員と分かち合い、サレジオ教育の理解を深める。  
⇒新しい主任の下、職員間のコミュニケーションを積極的に行い、お互いに協力、フォローする意識を高めながら、子どもたちを中心とした保育を目指して努力した一年だったと言える。また、職員のキリスト教的な理解を深めるために副園長が職員に対して定期的な講座の機会を持つことができた。

### (4) 家庭

1. 年頭、また参観などの機会に、教育理念を全保護者に伝える。
2. 家庭教育・幼稚園教育の大切さを理解して頂くよう、機会ある毎にお願いします。  
(家庭と幼稚園の教育観の一致、協力をお願い。－公共ルールや、躾など－)
3. 親自身が子どものお手本になるよう心掛けていただく。  
⇒保護者のライフスタイルの変化と共に、直接的に集まって伝える機会、また保護者同士の交流の場を作ることが難しい現状となっていることを痛感している。創意工夫をしながら家庭との関わりを築いていくことが求められている。

### (5) 運営・経営における時代のニーズへの対応

#### **保育の充実・子育て支援の強化**

1. 預かり保育のニーズがますます増えている状況に対応し、遅い時間に対応できる職員を増やす。夏期預かり保育も期間を延長してきた流れを継続し、運営方法などの課題を改善していく。  
⇒預かり保育の補助職員を増やし、シフトの不均衡を改善することができた。夏期預かり保育については15日間のプログラムが通常化し、職員も実施に慣れてきたが、年々増していく熱中症への対応が今後の課題として残された。
2. 昨年度から回数を増やした課外体操教室、また新設した課外英語教室のニーズがさらに増えていることに応え、新年度はまたクラスを増やし、課外教室前後の預かり保育利用もできるように対応する。合わせて空き教室のさらなる活用方法を検討していく。  
⇒概ね実施。課外教室前後に預かり保育利用ができるようにしたことで、保護

者のお迎え時間の調整が容易になり好評を得た。増加した課外活動により空き教室がさらに有効に活用された。

3. 3年間行ってきた注文弁当サービスの業者を変更し、より保護者のニーズに応えられる体制にしていく。

⇒新しい業者は直前まで注文の追加・キャンセルが可能となることで保護者のニーズに応えられるようになった。また、食べ残しが少ない分量であり、食育の観点から職員としても好評を得た。ただ、園として契約した業者と実際の弁当業者、配達業者がすべて別であることでチェック機能が曖昧となり、年度の後半にサービスの質の低下が散見されるようになったので今後の課題として対処する必要を感じた。

4. アプリを用いた保護者と園との相互連絡ツールを継続して活用し、保護者の更なる負担軽減を進めていく。

⇒遠足等の参加申し込み等もGoogleフォームを活用し、保護者から高評価を受けた。職員も年々アプリの扱いに慣れてきており、積極的に活用することで保護者とのコミュニケーションの幅が広がり、良い成果を見ることができた。

5. 保護者負担の軽減につながる行事の見直し、保護者会役員の役割の軽減等の工夫を継続的にやっていく。

⇒保護者の会役員の成り手が見つからず苦難のスタートとなったが、結果的にはその体験がきっかけとなり、役員の方々の尽力により、積年の課題となっていた保護者の会の負担軽減に向けての大きな一歩として1月に臨時総会を行い、規約を改正し、保護者の会がより参加しやすく活発な活動となるよう改革を押し進めることができた。

また、年度末に保護者アンケートを行い、園に対する様々な意見を集めることができた。保護者の声に耳を傾けながらさらなるニーズに応えていく必要を感じている。

## **募集対策**

1. 魅力ある園生活をアピールするため、上に挙げたような子育て支援を意識した取り組みをさらに継続させ、必要な改善を施す。

⇒募集への危機感を職員間で共有し、できる限りの創意工夫を持って取り組んだ。未就園児家庭へのアプローチとして、見学の問い合わせには速やかに対応し、園庭開放の回数を増やしたりして、実際に園に来て良さを感じてもらえるように努めた。

2. 従来の見学会や説明会のあり方、またパンフレット等を見直し、子どもたち、保護者に園の魅力がより伝わるように工夫する。

⇒前年度に新しくしたパンフレットは急いで作成したものであったので、改めて内容を精査し、充実させたものを作り直した。見学会での説明や見学内容を

見直し、堅苦しくなく入りやすい雰囲気作りを心がけた。

3. 未就園児親子対象のプレ保育を新年度も継続しながら、満3歳クラスの体制を検討、準備を進めていく。

⇒プレ保育は継続。しかし、前年度に比べ募集につながらない結果となった。同時に満3歳クラスの開設に向けて情報収集などの準備を進めた。

4. 小学校受験を検討する保護者にも意識を向け、隣接するサレジアン国際学園目黒星美小学校との連携、協力を今後も模索し、実践を継続していく。具体的には、年長組の星美小学校訪問体験、小学校の先生を園に招いて保護者への教育講話等を実施する。

⇒年長組の星美小学校訪問、小学校教諭による教育講話の実施、そして小学校のクラブ活動へのグラウンド提供など、継続して行うことで良い連携が生まれている。

5. 教会での祈り等を通じた宗教教育や自然豊かな広い園庭など、園の大きな魅力をPRするため、ブログやHPをより一層活用していく。

⇒遅れていたHPのリニューアルを行い、見やすいものとなった。ブログも継続的にを行い、保護者の情報収集の良い材料となっているという実感を得ている。

## **施設設備関係**

1. 施設の老朽化が加速し、安全面での不安がある為、営繕の職員が常に園内を巡回し、早急な対応をしている。教職員一同綿密に連携をとり、引き続き園児の安全に努めていく。

⇒今年度も多くの修繕必要箇所が出て、その都度対応した。特に電気系統で漏電が原因と見られる停電が複数回起きたことで、設備面でさらに大きな不安を感じた。

2. 改善されたwifi環境をより活用し、講堂や保育室の音響設備等の充実を図る。また、インターネット、アプリを活用した職員の職務効率化をさらに一歩前へ進めていく。

⇒音楽等のデジタルデータ化が進み、ほぼすべての音源を活用できるようになった。また歌やダンス、また預かり保育で子どもたちに見せる動画など、職員たちもネット環境を保育の現場に活用することに少しずつ慣れてきている。

3. なぜかなかなか進まない園舎建て替え計画を少しでも前に進めるため、法人本部の協力のもと定期的かつ頻繁に会合を重ねていく。

⇒園児の安全を守るという観点から見るとよりスピード感を持って進めていく必要を感じるが、少しずつしる確実に前に進んだという実感を得た。

### **職員の働き方、質の向上**

1. 子育て世代の教員が増えている現状を踏まえ、職員相互の働き方、有給休暇の取得などの改善がより求められている。今年度も継続してこの取り組みをしていく。

⇒有給休暇の取得は積極的に推進された。また情報の共有化を進めて休暇取得における職員間の不均衡がなくなるように配慮がなされた。

2. 昨年度に引き続き、幼児教育現場の質の向上、教員の意識のさらなる向上を求め、研修の機会を活用する。

⇒個々の職員の積極的な研修参加を促し、その情報を共有することで園全体の保育の質向上を図ることができた。また星美小学校職員の関係者である小児科医の細谷亮太氏を招いて職員への講話を行うなど、サレジオのネットワークを生かした研修を実施した。

3. 建物設備の老朽化等による子どもの安全への影響を考慮し、防災、防犯についてのマニュアル作成、訓練の実施について、現状も踏まえて見直しをしていく。

⇒警察の方の指導に従い、保育の中で子どもを交えての防犯訓練を実施した。また自衛隊経験のある用務職員から安全対策についての研修を実施した。

## II. 財務関係予算方針

### [基本方針案]

#### **園舎建て替え計画**

1. 園舎の建替え計画がなかなか進まない現状を打破すべく、具体的に進めていきたい。本部と連携して頻繁な会合を実施していく。合わせて、今後の幼稚園運営の在り方についても引き続き検討を重ね、サレジオ修道会と連携し計画を作成していきたい。

⇒建替え計画にあたり、この数年の地域におけるこの数年の幼児教育の現状を踏まえ、規模感などの調整を行うなど、少しずつではあるが具体的な進展が見られた。

#### **地方公共団体補助金**

1. 東京都補助金、預かり保育補助金ともに、前年度と同額を計上する。

⇒前年度とほぼ同額を獲得できた。

2. 東京都私立幼稚園経常費補助金については、園児数、教職員数を算定の上、予算に計上する。また、特別補助についても積極的に取り組み、補助金を獲得していきたい。

⇒予定通り獲得できた。

3. 令和6年度も夏期預かり保育の日数を15日間として補助金を申請する。

⇒R5年と同額を獲得できた。

## 経費について

1. 人件費については、特別な配慮が必要な園児も増えている為、補助の教員を必要に応じ配置している、今年度も必要な経費を計上する。  
⇒今年度も預かり保育のニーズに合わせて補助職員を増やし、また急遽退職した非常勤看護師の補充も行った。必要な人材配置は常に考えていくが、経営的な観点からも都度見直しを行いながら進めていく必要を感じている。
2. 引き続き、修繕が必要な箇所が多くあると見込まれ、必要な経費を計上する。  
⇒建て替え計画の実現を見据えて判断をする必要を毎年感じているが、建物の老朽化が進み、常に修繕箇所が出て来ているのが現状である。

## 足立サレジオ幼稚園

### I. 教育目標

- ☆ 神さまに愛されている子どもたちとともに生きる幼稚園を目指す。
- ☆ 足立区江北の地域においてサレジオ幼稚園がイエス・キリストの愛を告げる場所になることを目指す。サレジオ家族として「ドン・ボスコの夢&私たちの夢（サレジオ家族令和六年度目標）」を私たちの子どもたちと共に目指す。
- ☆ 地域社会の子育て支援の拠点の一つとして、教育・保育において有益な支援を行う。

#### 1. 目標達成の方法

A. サレジオ会の事業として、ドン・ボスコの教育法の三本柱である「宗教・愛情・納得」の実践に励む。

① 宗教、道徳教育に力を入れる。

- ・ 本年のサレジオ会のストレンナ（年間目標）がサレジオ家族として「ドン・ボスコの夢&私たちの夢」の実現に向けて、子どもも大人もこと、つまりサレジオ幼稚園の園児と職員たちが社会にとって良い影響を与える存在となるように導く。この目標を実践できるように園児たちが理解できる言葉、考え方に置き換えて保育において実践する。

⇒園児たちが月 2-3 回、教会で神の話を聞き、また宗教的な行事（マリア祭、誕生会など）を通してドン・ボスコの夢を伝えた。

- ・ 神さまの存在が信じられるように、教会でのお祈りやお話の中で導く。
- ・ 自然や音楽、味わうものなどに感動できる子どもに導く。(SDGs)
- ・ 神さまが造られたこの地球という世界を大事にする気持ちを育てる。

② 常に子どもに寄り添い、愛情に満ちた指導をする。

- ・ 愛され、大事にされている実感が子どもに伝わるようにかかわる。(優しい言葉かけ、穏やかな振る舞い、優しい視線など)

⇒遠足、園庭で遊びの時自然の体験を沢山があった。

③ 子どもが納得できる導き、かかわりを行う。

- ・ 子どもの話・気持ちをよく聴き（理屈に合わなかったとしても）、状況を把握して子どもの納得が得られるように、わかり易く優しく導く。(子どもなりの考え方に一定の配慮をする)

⇒自分のことだけではなく周りの子もいるということに気づく、共に生きることを日常の園の集団生活を通して学んだ。

B. 小学校に入る準備をする。地域社会に仲間入りする準備をする。

- ① 家庭での少人数の生活体験から幼稚園のクラスの友だちとのかかわりに変化する子どもたちを、忍耐強く支え導く。
- ② 自分の気持ちや考えを上手に伝えられる子ども、相手の気持ちや言葉を上手に受

け止められる子どもを育てる。

- ④ 日常の出会いを通して進んで挨拶ができるようにする。
- ⑤ 場面に応じた適切な言葉使いを教える。

研修で学んだ「サークルタイム」を実践していった。何気ない日常テーマから子どもたちが自然と発言していく環境をつくっていき大事なテーマの話し合いでも発言できるようにしていった。小さい学年から少しずつ進めていき経験を重ねていくことの大切さを実感できたので来年度も続けていきたい。

## II. 計画の実践

### I. 保育活動

- ① 今年度より満三歳児受け入れを実施する。

#### \*すみれ組

- ・昨年度より満三歳児に対し保育補助が出るようになっており、当園では今年度よりすみれ組として活動する。無理のないように子ども達の成長に合わせて保育をしていく。まず、幼稚園は安心できる場所で楽しいということがわかるように関わっていく。行事参加についても成長に合わせて決めていきたい。

#### \*ひよこ組

- ・昨年度まで未就園児クラスを週 2 回行っていたが、今年度より満三歳を開始するのに伴い週 5 回在園児と同様の時間の保育を開始する。すみれ組と同じ保育室で目標も同様にしていく。  
⇒予想を超える申し込み者があり人数を分けて保育を行いたいと感じる場面があった途中で退会する園児もいたのでクラス編成の難しさがあった。  
毎日の保育は本当に子どもたちの成長に繋がっていくことを感じられ満三を開始してよかったと思う。行事に関しては運動会、クリスマス会と大きな行事にも参加ができました。

#### \*年少ばら組

- ・未就園児クラスひよこ組での経験を活かして、生活面など自分のことは自分で行うことができるように援助していく。
- ・他の子どもとのトラブルも多発するので、自分の気持ちを適切な言葉で表現できるよう解決に導く。  
⇒人数が少ないクラスだったので一年を通して丁寧な保育を実践し穏やかに過ごすことができた。

#### \*年中ひまわり組

- ・自立心を高められるよう励ましたり保護者とも連絡を取り合っていく
- ・自意識が出てきて他の子どもとの衝突がよくおこるので、友達とのかかわり方を学ぶ時期である。
- ・対人関係で成長が著しい時期である。肯定的な関係作りに導きたい。  
⇒よく発言をする園児が引っ張る形ではあったがそれを柔軟に受け入れ物事が決まっていく様子が見られた。共同制作では、みんなが悩む時にいつも発言しない園児がよい提案をしてくれて、まとまったことがあり虫がいたときには虫博士に教えてもらうなど一年を通して友だちを認め合い一緒に成長する姿がみられた。

#### \*年長ゆり組

- ・年長の意識が出てきて小さい子どもたちと優しく関わりたい意識が増えてくる（縦割り保育）。また小学校への不安を抱えた時期でもある。挑戦と成功、失敗を繰り返す中で自分を信じていける心を育てたい。
- ・社会的規範に目を向けさせる。  
⇒縦割りの活動は中心になっておこなうことができた。小学校の運動会のリハーサル見学、給食体験もできたので楽しみになっていった園児も多かったと思う。

\*各年齢の発達支援においては、幼少期の特性を考慮して対応し、過度の要求は慎む。

#### \*バス通園の安全管理に努める。

- ・ドライブレコーダー、バスの安全装置などを装着することはもちろんのこと、運転手、添乗職員の安全意識を高めて事故を防ぐ。また園児の出欠状況を確認に把握し、不明な時は時間を置かず確認する。  
⇒園バスの運行の時、災害の場合は（交通事故、地震など）簡単なマニュアルがあるが、もっと細かい、色んなシナリオに応じるものが作成できなかった。園児の安全のためにできるだけ早めにわかりやすいものを作ることが必要である。

#### \*防犯意識をもって保育にあたる。門の施錠を確実に行う。

- ⇒保護者のネームプレートも徹底して園側が不審者に対して高い意識をもってることが伝わっていった。防犯カメラが故障してしまったので購入もできた。

#### ② 年間行事

- ・昨年度は新型コロナウイルス感染症が五類に移行し、少しずつ全体行事ができるようになった。今年度は感染対策に気を配りながらも平常の開催を行う。また夏場は以前より暑さが厳しくなっているので、子どもたちの健康に気をつけ暑さ対策を徹底する。
- ・バザーについて去年は、気をつけながら実施ができた。コロナ前のような保護者主催の大々的なバザー運営は就労している保護者も増加しているので難しい

と考える。教職員でできる範囲で保護者には有志で協力をお願いしたい。またカトリック足立教会との共催なので、意思の疎通を図りながら実施に向けて動いていきたい。富くじ的なバザー券の販売は法に触れる恐れもあるので、検討する。

・毎年行っているものについても惰性的にならないように工夫する。

⇒暑さ対策が必須だった。毎日熱中症数値を記録して共有をした。バザーはコロナ前より規模は小さくなったが無理のないように保護者には有志を募り開催できた。卒園児がたくさん来てくれて元気な姿をみせてくれたのは嬉しかった。

### ③ 縦割り保育

・幼稚園に入園したての子どもたちは自分の家族以外の人や子どもたちとの接し方をまだよく知らないので、園児たちがその接し方を学ぶ良い機会となる。

・縦割り保育は自他の区別や互いを思いやる情操に大変有効なので、年間を通して実施していきたい。

・職員の発案や子どもの希望を通して楽しい保育を目指す。

・大きな行事に左右されない火曜日などに実施していく。

・子どもたちも楽しみにしているので、大事な保育として考えていく。

⇒9月に入りすみれ組も縦割りに参加できた。すみれ組以外のクラスで過ごす経験、異年齢の園児と一緒に遊ぶ経験は貴重な時間になった。

### ④ 預かり保育の実施

・預かり保育の時間を通常保育の日には、保育時間終了後 14:30 から最長 17:30 まで実施する。

・長期休暇中の預かり保育は夏休み、冬休み、春休み共に 8:40 から 17:30 まで実施する。11:30 降園保育の日にはその後は通常預かり（有料）保育として 17:30 まで実施する。

・保護者のニーズに応えるために、預かり保育の時間を延長することも検討し実現したい。

⇒9月から早朝保育を開始することができた。利用者は少ないが実践することの意味があるので続けていきたい。

### ⑤ 保育参観の実施

・昨年度は廊下から目隠しをして様子を見てもらうことができたので引き続き保育中の我が子の様子を見たい保護者は多いので、できる限りその要望に応じて実施していく。

### ⑥ 保育室の増設を行い、満三歳児クラス（すみれ組）運営を行う。

・三年保育を継続していくためにはその年齢以下の園児の確保が必須となっている。そのために年少園児クラスの下に週五日の満三歳児クラスを運営する。

・その保育内容、職員体制などの準備も同時に行っていく。

⇒ひよこ組すみれ組の合同保育になったのでいちごクラブの部屋として活用した。

⑦ 令和六年度のひよこ組は足立区の補助で週五日実施する。いちごクラブも入園児確保のために回数を増やし時間も 30 分延長して実施していく。

- ・ 募集のためには HP などを充実させていく。特にスマートフォンに対応した HP 作る。
- ・ 普段の保育の様子をインスタグラムで配信し、リアルな保育を見てもらう工夫をする。(実施中)

⇒ひよこ組の週5回保育を実践することができた。預かり保育、給食注文、通園バスの利用も可能にしたので保護者からは喜ばれた。しかし、給食のおかず大きさを不安に思う保護者がいて教員が小さくカットする作業を行った。バスの乗車では安全面など教員の負担が多くなった。

## 2. 職員対応ならびに財務関係予算の方針

### ① 職員の確保

- ・ 令和 5 年度はクラス補助が不足したので派遣業者から 1 名お願いをしてどうにか運営ができた。しかし、派遣は支払が高額な為とても大変だった。六年度からは満三歳児クラスを実施するので職員の確保にとっても苦労したが派遣を頼らずどうにか確保できた。
- ・ 保育の中で生き生きと働き活動する職員の動画や声を HP などに発信していく。
- ・ 職員の確保はまた離職者をなくすことが大事であるので、離職に繋がらないように長く勤められる職場の環境(勤務内容、勤務時間、給与)を真剣に整備する。

### ② 有給休暇の取得の改善

- ・ 職員待遇も大事なポイントなので、早めの帰宅ができる体制を作り、有給休暇の取得をしやすくする。有給休暇の残余分の扱いについては昨年度と変わらなかった。長期預かり保育時間が長時間になったので出勤する日を教員同士で調整をする必要になり必ず残ることになる。引き続き法人本部と相談して適切に解決していきたい。
- ・ 保育後の清掃をシルバー人材センターに委託して、打合せ時間を短縮する為に、アプリの業務ボードの活用ができていたので引き続き職員の負担を軽くし、早めの帰宅に繋げる。

⇒早朝預かり保育を担当し引き続きクラス保育を行っている状態な為、教員の負担は大きい。超過勤務を改善していかないといけないが具体策が見つからない状態。

### ③ 職員研修

- ・ 支援の必要な園児たちのために、臨床心理士を招いての職員研修を行う。(年間三回ほど計画する)
- ・ 昨年度はサレジオ家族教職員養成講座に参加できなかったのが、研修プログラムに落とし込んでしっかり参加する。

- ・保育内容も日々変わってきているので遅れないように必要な研修会に参加し、受講後に発表を行い、他の教員にも参考になるようにする。

⇒足立区主催の年齢別の研修に参加ができた。

#### ④ 園庭の砂ぼこり対策（天然芝化）

- ・一昨年、園庭に隣接する民家から園庭の砂ぼこりが家の中に入ってくるのでその対策を要求された。今は応急的にフェンスにビニールシート貼って対応しているが、抜本的には園庭の芝生化が必要であると思う。人工芝は資金的に困難である。天然芝は管理がむづかしいと言われるが、運動に強い芝生が開発されており幼稚園児のような体重、運動量では大丈夫だと言われている。また最近の夏の過激な暑さでは園庭の土の上では暑くて外遊びができない（人工芝でも暑い）。また現在東京都では私立学校の校庭に天然芝を植えるところに対してほぼ全額の補助を出すようになっている（東京都私立学校運動場芝生化補助金交付事業—令和五年度要綱補助率10/10）。補助には芝生化工事、スプリンクラー工事、芝刈りに関する機械等の購入費等も含まれる。足立地区のある幼稚園も同じ補助を受けて天然芝を植えている実績があり、園児たちが裸足で園庭を走り回っていると聞いている。メンテナンスにはさほど経費はかからない（芝刈り費用、肥料代）が、きれいに保つ意識的取り組みが大切である。昨年度は説明不足で実行できなかったのが今年度はぜひ実施したい。緑の天然芝の上で遊べる幼稚園として園児の募集に活用できるのではないかと。埃っぽい足立サレジオ幼稚園としてはぜひ導入したい。

#### ⑤ 保育室増設

- ・満三歳児クラスを実施するにあたり保育室の確保が望まれていた。現在の計画では満三歳児クラス（すみれ組）の保育室は現在のひまわり組のクラスを当てることにし、ひまわり組の保育室を駐車場に新たに立てる保育室を充てる予定である。
- ・資金確保

本部のご指示のもと資金の4,000万円の借入金をして年500万円を8年で返済する計画を立てた。

- ・駐車場の場所に一階建て建築する。6台中残り4台分の駐車は可能。
- ・当初5月には完成予定だったが、審査が遅れて現在も建設工事は開始されていない。予定では4月から開始し、5月中旬完成予定と聞いている。保育が開始している時期になるので保育に支障ないように、安全に行ってもらうように本部からも伝えてもらうようお願いをした。

前年度の計画で未就園児クラスのデッキと園庭の段差が大きいため、他のクラスのようにコンクリートの段差を設置したかったが、できなかったのが増築工事の時に同時に行うようにする。

⇒4月から工事を開始し8月に完成した。この期間の登降園では保護者に協力をいただき事故もなく無事に完了した。

しかし、8月末の台風で増築部分と園舎のつなぎ目から雨漏りをして天井や壁紙が染みてしまった。まだ修繕してもらえていないので日程調整をお願いするようしていく。

- ⑥ 保育室入り口に雨が降りこむことがあり、西日が射しこんで保育室が暑くなるため、増築と一緒にオーニング（日よけシェード）工事も考えたい。

### 3. その他

- ① カトリック足立教会とのコラボレーションで奇数月の第二土曜日に「オラトリオ足立」を2時間ほど行う。
  - ・幼稚園の園庭と教会の集会室を開放して、近隣の子どもたちや大人たちに来てもらう活動を始めた。この一年で毎回十五名ほどが参加してくれた。募集のためにも、幼稚園と教会があり誰でも行ける場所（子どもの居場所）としての幼稚園を認知してもらう作戦。今年度も実施する。（保険にも加入している）

## 町田サレジオ幼稚園

サレジオ家族 年間目標 (Strenna 2024)

「ドン・ボスコの夢 私たちの夢」

町田サレジオ幼稚園 年間目標

愛されていることを実感できる教育を行おう

### I. 教育目標

創業者ドン・ボスコの教育理念である 愛情(信頼)・道理(納得)信仰(祈り)を基本とし、家庭と密接に協力しながら種々の経験を通して生きる力を育む。

南多摩の自然に囲まれた環境の中で明るくのびのびと活動し明るい心、親切な心、素直で正直な心を育てる。

幼児自身が愛されている体験を通して自ら神と人を愛する心、豊かな品性と国際的素養を身に付け円満な人格形成を目指す。

1. 隣接する小山内裏公園や白山公園、広くて安全な園庭での戸外遊びを通して自然とふれあい、からだを使って健康に過ごす。
2. 異年齢間の交流を多く持ち、年長者は年下をいたわる心、手本になれるように行動する心、年少者は年上への憧れから挑戦しようとする心を育てる。
3. 発達が遅く、ケアの必要な数名の園児への対応とその他の園児のケアのバランスを考え、サポート体制を整える。

※ 3については必要に応じて、サポート体制をとる。なお、サポートの必要な園児については専門機関（島田療育センター、町田市発達支援センター、相模原市発達支援センター、相模原市協同病院、コペル リタリコ民間の発達支援センターなど）との連携を取りながら教育を行う。2024年度加配対象児5名

保育内容他

#### ① 保育内容 行事

・興味関心があることに探求心を持って取り組み、創造性を広げる活動ができる環境づくりや、高専との連携の中で理系分野にさらに関心が深まる活動を取り入れていく。

#### 高専のイノベーションコモンズの教授による五感教育

・行事ごとに目的、手立て、流れ等の評価、反省をし、マナーにみならずかつ良いところは継続し次の活動に生かす。(行事の数、進め方、制作の見直し)

・様々なスポーツの体験と地域との交流

プロサッカー プロ野球 デフサッカー 警視庁騎馬隊の協力による乗馬体験

高齢者施設の訪問（歌 ダンスのプレゼント ふれあい活動）近隣教会への訪問

② 縦割りクラス活動の継続

・2歳児から5歳児まで1年を通して週1回行った縦割りクラスでの活動の評価反省をもとに、さらに楽しく活動するために活動の検討をする。

・活動の成果として運動会で縦割りクラスのグループで遊戯の発表をする。

③ 情報発信

・保育の中で生き生きとして活動する子どもたちの様子を今まで以上に保護者のみならず多くの人に周知するためにホームページやInstagram、ブログにて発信する。

・アプリを使いきるだけ保護者にはメールでの配信に協力してもらうことによって省資源に努める。

④ 宗教

・常に神様に守られていることを実感し、神様と周りの人に感謝する心を養う

⑤ SDGsへの取り組み

・年長組を中心に年間を通してひき続き活動する。

・世界の貧困、地球の温暖化について子どもたちにわかる範囲で伝え、将来の夢を実現するためにも未来の地球に関心を持ち得ることから取り組んでいく。子どもたちへ働きかける前に職員の意識を上げ、特に身近な省エネ（節電、節水）を教師が進んで取り組む。（目に見える形で共有）

・食ごみからの堆肥→畑→野菜栽培（コンポスト利用した土壌づくり）

・ごみ講座を受ける（町田市環境資源部3R推進課に依頼）

・デフリンピック選手との交流（聾の方との交流）

<継続事項 新型コロナウイルス感染症への感染対策として>

※ 検温の徹底（登園前の自宅で検温はアプリにて保護者が入力）

※ 手指消毒

※ 遊具や保育室および共有箇所（トイレ、手洗い場、階段、玄関等）の丁寧な清掃

※ 適切な換気（空気清浄機を各保育室に設置済）

— 募集に関して —

園則の定員を確保することが目標であり2025年度入園の募集は満3歳児20名 3歳児30名の募集活動を展開した。2019年10月からの保育の無償化以降、年を追うごとに「満3歳児」の受け入れが町田市、八王子市、相模原市周辺地域の主流となっている状況を鑑み、昨年度より「満3歳児クラス」を新たに開設した。2024年度は年度初めから単独クラスにて運営しまた年度途中で満3歳になる2歳児も年度の初めから受け入れた。

未就園児はプレクラス（こばと組）週2回のクラスを1クラス。例年通り行い年度途中で3歳を迎え満3歳児クラスに移行した子どもが多かった。身近に幼稚園を知っていただくためにカンガルー広場（保育室開放）は水曜日以外毎日開設。地域の子育ての支援としていろいろなバリエーションのある教室を開き参加人数の増加に取り組み、より早い段階で幼稚園を知り本園への興味や関心を持ってもらうよう努めた。（0歳、1歳）

<園児募集につながる子育て支援の充実>別紙参照

① バリエーション豊富な子育て支援

0歳児から在園児、卒園児（兄姉）をも含めた幅広い子育て支援の実施

② 園児募集に直結するプレスクールの充実とともに子育ての相談に随時応じ保護者との信頼関係を作る。

③ 園庭開放、保育への参加、保育室開放等を毎月切れ目なく行い、なおかつプレスクール以外の無料で実施している活動に関しては町田市子ども生活部子育て推進課が毎月発行している町田市子育てひろばカレンダーに昨年度同様記載を依頼する。（町田市公式ホームページにもリンクしている）

④ 八王子の子育て施設に毎月の未就園児の予定をおいてもらう。（八王子市南大沢子育て支援センター）

⑤ 在園児には預かり保育の充実（専任の担当を配置）

早朝保育（保育開始前8：00から9：00まで）

長期休み中の預かり保育と預かり時間の延長（8：00～18：00まで）

14：00から16：00までは複数の担当を配置。

⑥ 地域のイベント（商工会の祭り等）に可能な限り協力し、本園の認識を広めるとともに積極的に会議に出向き情報収集に努める。

⑦ 地域の子どもセンターで行っているイベントに職員が出向き地域の乳幼児やその保護者と交わりを持ち本園の特徴を説明し興味を持ってもらう。

⑧ 町田市堺地域子育てネットワーク会議および研修に参加し、地域の中の幼稚園として子育て環境や子育て支援についての意見交換をし、園の存在価値を広める。

⑨ 土曜の広場

対象どなたでも。園庭、保育室での遊び

⑩ 地域の保育子育て施設（0，1，2歳の認可外施設、企業連携型施設）と連携を持ち特に1，2歳児の保護者へ幼稚園への興味関心を持っていただけるように宣伝をする。

⑪ 保育料無償化以降、新2号認定児が毎年増加し預かり保育の利用者が多くなっていることから、人員配置を増やし、より安全に楽しく過ごせる工夫をする。

— 教員の養成 —

学院長による教職員へのカトリック要理の講義を継続する。これを通してカトリックについてカトリック・ミッションスクールへの理解を深める。昨年同様にサレジオ家族教職員養成講座をオンラインにて職員全員で受ける。その後も保育にそして自らの生活にど

のように生かすか分かち合いの時間をとる。

学年の担任同士で経験者がイニシアチブを取り、園長、主任の助言の下、新任を育成する。さまざまな教育機関（全国カトリック幼稚園連盟、私学財団研修、東京都私立幼稚園協会研修、町田私立幼稚園連盟等）が開催する幼稚園教諭の研修会に積極的に参加し、現場に学んだことを活かす。研修の内容を全職員で共有する。

職員間の係分担を明確にし、それとともにわからないことは教えあい経験の浅い職員へのサポート体制をしっかりととる。

## II. 財務関係予算方針

施設関係	地下への水の侵入防止工事を行った。工事以後大雨の後も水の侵入は見られない。 2階へ上がる階段2か所に現在1方向のみの手すりからもう一方の方向の手すりを設置した。
備品調達	特になし
広報関係	本園の教育の信頼度、知名度を上げるための具体的な広報活動を行う。近隣の大型マンションへの案内配布（年3回）スーパーなどにポスターの展示。周囲の幼稚園の情報の収集、地域の情報、在園する園児の父母たちからの情報（アンケート）を収集し、ニーズを把握し、要望や参考意見はできることから取り入れた。

### 2025年度園児数

満3歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
9名	35名	29名	28名	101名

## 2024（令和6）年度未就園児および地域活動一覧 町田サレジオ幼稚園

名称（担当）	対象（年齢）	申込方法	費用	内容	活動日
ベビーマッサージ （アイリス代表 片山千恵講師）	生後 3 ヶ月～10 ヶ月ぐらい	必要（各回定員 12 組）実施月 初日 10 時より電話、ウェブ受付	初めての方もしくはお持ちでない方オイル代 300 円	ベビーマッサージ 母子で癒しの時間を過ごしましょう。 途中授乳休憩あり	年 8 回 5 月 6 月 7 月 8 月 9 月 11 月 1 月 3 月
季節の手形足型アート （渡辺美穂子講師）	0 歳～2 歳まで	必要（各回定員 12 組）実施月 初日 10 時より電話、ウェブ受付	材料費 300 円	講師の先生と楽しく親子でアートに挑戦	年 4 回 4 月 7 月 10 月 1 月
親子で体操（3B 体操講師 今井 美帆）	お座りができる 0 歳児から未就園児親子	必要（各回定員 12 組）実施月 初日 10 時より電話、ウェブ受付	無料	親子で体を動かして楽しみましょう	年 10 回 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 1, 2 月
カンガルー広場 （園長）	0 歳～2 歳まで （未就園親子）	不要	無料	※保育室開放 乳幼児親子の自由遊び（応子育て相談）	毎週 月 火 木 金（休園日除く） 10:00～11:30

エンジェルクラブ (主任)	満1歳になった方どなたでも参加できます。(親子活動)	随時受付	入会時のみ 300円(名札 保険) 毎回の参加費 無料 但し教材の準備のため前日までに予約制	お母様の子育て応援のクラブ。 一緒に幼稚園でいろいろな活動を楽しみましょう	年16回水曜日に開催 11:00~12:15
こぼとクラス/母子分離	2021年4月2日から2022年4月1日生まれ	必要 募集中 定員20名	募集案内をご覧ください	母子分離保育	火金の1コース 年間約60回
コアラの日(園体験)	2021年4月2日から2022年4月1日生まれ	必要(各回定員15組)	無料	幼稚園体験、先生や園児と遊みましょう	保育体験 10:30~11:30 5月 6月
園庭開放	未就園児親子	不要	無料	幼稚園のお兄さんお姉さんと一緒に遊みましょう	毎月1回
土曜の広場(地域開放) 園長 長山	在園児その家族(両親、祖父母、兄姉)近隣の小学生および保護者 未就園児親子	不要	無料	昔遊び 園庭遊び 保育室開放(※とおなじ)	4月から翌年3月まで毎月土曜日開催

その他 1、地域高齢者いきいきポイント活動として高齢者グループ(6名)「読み聞かせ ふれあい遊び」

対象者 未就園児親子 活動時間約30分

学校法人育英学院サレジオ中学校	
令和6(2024)年度学校自己点検評価表	サレジオ中学校

本校の教育方針	生徒の全人的成長を最大限に促進させるよう努める。特にキリスト教精神に基づく人間教育に力をいれる。学業を中心に豊かな自然環境と少人数制の中で学校生活で繰り広げられる多彩な年間行事を通して、教職員との密な協働活動を通し共に成長する。聖書とカトリックの価値観による神の存在と深い人間理解に基づき個人の成功のみでなく自己に責任を感じ生き社会人として貢献できる人になるよう育てる。
---------	---

教育の特色	ドン・ボスコの予防教育法である①本人の納得を得、本人の判断で決定していけるよう「理性」に訴えること②教職員の側からの分りやすい、やさしい対応による伝わる「愛情」③カトリックの価値観を意識し、神のみ前で生きることを促す「宗教」の三つの柱を特色とする。教職員が共にいて支えるアシステンツァを通して、教室での学習のみならず、学校生活の全てを通して予防教育法を実践する。
-------	---

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況	評価	取り残した課題
------	------	-----------	----	---------

宗教教育	校内の宗教的雰囲気醸成	宗教行事において司牧部の生徒や役割を与えられた生徒を中心に、生徒達の主体的な参加を促すことができた。倫理授業開始の際、生活の振り返りと祈りを行うことで、日常生活を宗教的な視点から見つめ直すことができた。	B	司牧部会から教員・生徒へのはたらきかけをより強めていき、学校全体としての宗教的雰囲気を高めていきたい。特にサレジオ会来日100周年に向けての意識を高めていきたい。
------	-------------	---	---	---

教科指導	学力向上のための充実した授業の実施と教育効果を高める教育課程の作成 生徒の自主的学習態度の育成	国語	読む力、書く力、話す力・聞く力をバランス良く身につけさせることを目標とした。授業はワークシートを用いて行い、書くことが苦手な生徒もできる限りついてこられるような授業作りを行った。また、それぞれの単元終了後に作文や小論文、レポートなどの課題を出し、物事を主体的に考え出す力を培わせた。対話的な授業実施を心掛け、教員対生徒はもちろん、生徒同士の対話も重視した。漢字テストや確認テストなどを定期的に行うことでこまめな学習成果の確認を行った。	B	授業に関係ない私語などが目立った。集中力を持続させることが苦手な生徒が多いため、要所所で授業に注目させられるような工夫を行いたい。また、小テスト・定期テストなどの結果が思わしくない生徒が多いため、予習復習を徹底させたい。
------	--	----	---	---	--

教科指導	学力向上のための充実した授業の実施と教育効果を高める教育課程の作成 生徒の自主的学習態度の育成	社会	社会に対する関心を高め、様々な角度から考察し、我が国の国土と歴史に対する理解を深め、公民としての基礎的教養を培うことを目標とした。教科書を基に作成したプリントで授業を行い、単元ごとにDVD教材や問題集、小テストを活用し理解を深めた。また、インターネットを利用して調べ学習やビデオ等の視聴覚教材を利用し社会科に関する興味・関心を深めた。単元毎の確認を小テストや課題の提出などで補った。今後は自発的に考え、発表する機会を多く取り入れる必要があると思われる。	B	学習に対する理解度に個人差がある。生徒の学習における習慣化のためにも家庭学習時間を充実させたい。そのために継続的な課題と提出を目標としたい。また、探求する場を多く取り入れたい。
------	--	----	--	---	--

教科指導	学力向上のための充実した授業の実施と教育効果を高める教育課程の作成 生徒の自主的学習態度の育成	数学	数学的活動の楽しさや数学のよさを実感することを目標としている。数量や図形などに関する基礎的な原理・法則についての理解を深め、数学的な表現や処理の仕方を習得するために、単元ごとにプリントを用いて復習し、定着を図った。事象を数理的に考察し表現する能力を高めるために、長期休みの期間を活用して、レポートの提出を行った。また、毎授業ごとに宿題を出し、授業時間内にも取り組む時間を設け、生徒同士で考え教え合うことで、家庭学習の助けになるようにした。生徒の基礎的な学力の定着のため、基礎的な計算を行う機会を増やすようにした。	B	基礎的な計算力や数学的な知識が身につけてない生徒の割合も多く、より基礎的な段階での学習が必要だと思われる。個別指導の機会を設けたい。宿題提出の習慣は身につけてきている生徒の割合は多いが、自分の間違いを認識し、修正する段階までいっている生徒の割合は少ない。また、宿題提出の習慣が全く身につけていない生徒が一定数見受けられる。生徒それぞれの課題について認識させたい。
------	--	----	--	---	---

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況		評価	取り残した課題
教科指導	学力向上のための充実した授業の実施と教育効果を高める教育課程の作成 生徒の自主的学習態度の育成	理科	身の回りにある事物・現象について科学的に考察し、観察や実験を通して科学的な見方や考え方を養うように努めた。今年度は、モニターを使った授業を行い、映像やアプリケーションを用いることでより生徒の興味・関心を持たせることができた。生徒が発言する機会を作り、相手の意見に対して科学的に考察させることができた。またプリントを用いる授業を行うことで、生徒一人一人の授業の進行状況を揃え、理解を深めた。苦手意識の強い物理や化学の分野では、小テストを取り入れ、練習する機会を増やした。	B	学習に対する理解度に個人差がある。観察及び実験や映像を使った授業を多く取り入れたため、問題集や確認テストなど知識の定着を知る機会が少なくなってしまう。そのため授業では、より知識の定着を図る機会を増やしていきたい。また授業の中で生徒との対話をより取り入れて、主体的に授業に参加させるようにしていきたい。
		英語	聞くこと、読むこと、書くこと的能力を養うように学習を進めたが、話すことについての学習については不十分であると考えている。今後も時間を掛けて指導していきたい。各学年とも異文化について楽しみの時間を持つことができた。文の構文に意識するように定期的な課題を出し、文の構造について理解できる生徒が増えて来た。	B	提出物などの取り組みは昨年以上に良くなったと思われるが、1クラスの中でも非常に学力差があり、授業のレベル設定が非常に難しい。学習について困難な生徒でも指導をしにくい状況があった。学習不足だけがその要因ではないことに難しさが非常に残る。全体的には単語力をつける指導に課題が残った。
		音楽	音楽を表現するために必要な基礎的な知識、技能を身につけ、器楽合奏、独奏、合唱などを実施し、音楽的な感受性、楽しみを身につけることを目的とした。また、音楽鑑賞をとおして、さまざまな分野の音楽に対しての興味・関心を高められるように努めた。	B	歌唱授業をとおして、旋律だけでなく歌詞への理解や適切な歌唱技術の習得の難しさを認識した。また、器楽合奏、独奏においては、個人差はあるが、どうしても技術的な面を優先しがちになるので、技術面だけではなく、音楽性の向上につなげていきたい。
		美術	表現の技能を身につけ、感性や想像力を働かせて、創意工夫し創造活動がおこなえるように、主題を厳選した。能力に応じ完成度を求め、喜びや達成感のある活動となるよう意識した。鑑賞を通して日本や世界の文化、自然や美術文化への興味、関心を深めた。	B	授業時の生徒の取り組みは良いと評価できた。技法の理解を深めるために、個別に関わる機会を増やし対応した。自発的な取り組みもみられるようになったので、より様々な課題を精査していきたい。
		技術 家庭	ものづくりの基本を体験を通して学ぶとともに、衣食住についての知識を身につける。家族や地域社会に関心をもち、生活を充実向上するため適切に活用できるようにする。生活や社会を支える情報技術についても実践を通して深めた。	B	分野が広範囲な為、広く浅い授業になりがちであった。理論と実習時間のバランスでは実習時間をより多くしたいが知識理論を前提とした導入にどうしても時間がかかってしまうことは指導の課題だと思われる。実習に於いては積極的に参加する生徒が増えつつある。
		保健 体育	運動の楽しさや喜びを味わいながら、知識や技能を身につけ、体力を高め、心身の調和的な発達をはかりながら、自己の最善を尽くして運動する態度を育てる。個人差が大きすぎて、技能的な部分で到達度が低い者にたいしては個別指導で底上げを試みたがなかなか効果は上がらなかった。23年度からカリキュラムに入ったダンスは体育祭の時の特別時間割の中で実施した。	B	毎年残る個人差については、技能的な部分で到達度が低い者に対しては個別指導で底上げを試み、能力の高い生徒と低い生徒と分け、生徒数が少ないことを逆利用して能力別指導を試みた。毎年能力が低い生徒が増えている。

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況		評価	取り残した課題
進路指導	自己実現への意欲と実力の涵養	進路先が広範囲に及び、能力差も大きいので、指導は個別指導が中心になってくる。推薦試験を希望する生徒の割合が多いため、面接、小論文の練習を充実させた。保護者面談や生徒との面談、また三者面談を行い、生徒、保護者、教員が話し合う場を設けるように設定した。		A	進路に対して本格的に考え始める時期をもう少し早めることが課題である。生徒、保護者と相談する時間を多く設け、一人ひとりの進路に対する考え方、気持ちなどを確認することができた。より早くから生徒に声かけし、考えさせることを行っていきたい。
生徒指導	基本的な生活習慣の定着	毎週各学年一人ずつが週番となり、週目標と注意事項を決め、クラスごとに達成状況を反省し、次に繋げている。また、中学一年生の校内宿泊学習では集団の規律を守りながら皆で協力し責任のある行動をとる力の育成を図った。中学二年生の校外学習では、班別行動を行い、個々の目標を定めながら、集団活動に反映させた。中学三年生は中学校生活で行う特別活動の総まとめとして、長崎の修学旅行を通して平和学習や宗教学習を行った。		B	週番活動では、生徒の実態を把握するに至った。校内宿泊学習や校外学習では、集団行動を通して協力しあい、相互の関係を深める経験をした。修学旅行では、集団学習のまとめをしつつ、平和学習や宗教的な歴史や学びにもふれ、たくさんの方を経験した。
特別活動	自主的に学校生活に打ち込む生徒のサポート	部活動	バレー部、サッカー部においては、明確な目標のもと、日々練習を重ね、練習試合や公式戦に臨んだ。球技部は校内での活動に重きを置いて活動した。美術部は個人の作品をつくることに重点を置いて活動した。オルガン部は宗教行事の中で聖歌の伴奏をするなどの活動をした。軽音楽部は文化祭等の行事で、バンド演奏をするなどの活動をした。各顧問は生徒一人一人の性格や能力を把握しながら適切な指導を行っている。	A	バレー部・・・全国大会優勝を目指し、練習に励んだ。全国大会に出場し、決勝トーナメント進出した。 サッカー部・・・集団スポーツとしてのサッカーへの理解を高める。大会への参加を目指す。 球技部・・・いろいろな球技を取り入れながら、スポーツの楽しさを実感できるように心がける。 オルガン部・・・パイプオルガンでの練習、レッスンをとおして、技術、音楽性を高め、オルガン音楽の普及を目指す。 美術部・・・楽しみながら美術としての深さを体験する。 軽音部・・・興味のある楽器を持ち、基本からバンド練習を通して発表に繋げ音楽の楽しさ、チームワークを学ぶ。
		検定	多くの生徒が各学期一回実施される英検・漢検・数学検定に積極的に取り組んだ。漢検や数学検定では、放課後や昼休みに補習の時間を設けた。	B	積極的な取り組みを見せる生徒が多くなってきたが、一部の生徒はなかなか関心を持っていないままである。モチベーションを上げられるように工夫する。
		行事	体育祭では個人競技、団体競技、応援合戦などに全生徒が積極的に取り組み、教員は指導・サポートの充実をはかった。文化祭ではクラスで協力して、アトラクション企画や劇、教室展示の作成・発表を成功させた。行事においては、どの生徒も自分の持てる力で最大限その場に参加し、成果を出すために協力する大切さを学ぶことを目指している。	A	特別時間割となるため、授業時間とのバランスを取りたい。小中合同での開催するため、開催時期の見直しを実施した。今後はこの日程で実施する予定。
国際交流	英語に興味・関心を持つ生徒の育成・支援と海外との交流の推進・英語検定受検の推進	英語検定については、積極的に取り組む生徒が増えてきた。学校実施の英検については、生徒たちは意識を持って積極的に受験している。		B	教員からの積極的な働きかけを増やし、興味・関心を促す。

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況	評価	取り残した課題
研究・研修	校内外研修の計画と実施	毎年開かれる全国カトリック学校校長教頭合同研修会に積極的に参加しカトリック校としての使命を確認する。小規模校で、ひとクラスひとりの担当制で営まれている学校では、研修に出かける余裕がなく、閉鎖的になりやすいので極力休業中に研修に与えることを勤める。また、学校に講師を招き、難しい児童・生徒の対応の仕方等について研修を行った。	B	職員会議、担任による会議、カウンセラーやソーシャルワーカーとの意見交換等で、学習・発達支援の必要な生徒の対応・問題点について話す機会が増えている。今後は研修の機会を多く持ち、更に専門的な知識を身につけたい。
家庭・地域との連携	開かれた学校	生徒保護者の活動として、体育祭では受付、文化祭では模擬店を行った。クリスマス会にはお祝いを用意してもらい、ドン・ボスコの記念日にはドン・ボスコランチを提供してもらった。 同窓会の活動としては、文化祭での受付をもらった。また、卒業生が20歳になった年の1月には成人祝福式をおこなった。 3月には近所の福祉施設で、ハンドベル演奏を行った。	A	生徒保護者「ひな菊の会」、卒業生保護者「オリーブの会」、同窓会などと一緒に行事を行う機会を増やすことができた。地域の方との交流の機会も持つことができたので、より多くの方に学校を知ってもらおう機会を作っていきたい。
安全管理	防災非難訓練の実施 防犯訓練の実施 安全点検	年間3回の小中合同の避難訓練を実施した。それぞれ、火災・地震・不審者侵入を想定したもので、基本的な避難経路と避難先を確認。緊急放送設備の点検も行っている。3・11地震と津波による自然災害の脅威について学び、災害時の対策マニュアルを見直した。災害時のマニュアルを新たに更新した。	A	不審者に対しては、実際に起こったときに生徒・教職員がどのように対処できるか不安が残る(心理面含め)。また、教職員が誰でも対処ができるよう、対応の周知を徹底したい。
		年度初めの四月に、小平警察に依頼し、生徒向け、保護者向けのネット携帯講座を行った。また、自転車通学を許可しているので、関連の動画を視聴し、自転車の乗り方についての講習を実施した。	B	生徒たちの歩行時・自転車のマナーに対する意識を一層徹底していきたい。
健康管理 (保健室運営)	自分の健康に関心を持ち健康な生活が送れるよう、自ら考え行動できる児童生徒の育成	定期身体測定・健康診断の実施と結果報告並びに治療勧告を行なっている。治療勧告に対しての受診率が低いので再三の受診勧告を行った。感染症の対策としては、手洗いを促し、アルコール手指消毒を呼びかけている。保健室の利用状況については、怪我やメンタル面で保健室を来訪する者が多い。環境点検(水質検査・トイレ・洗い場・中庭)を週に一度実施している。	B	感染症対策としては、適切な睡眠、食事、食事で免疫力を高めることや手洗いをすることが重要であると考え。心と体の健康、特に思春期の精神面での援助が重要になってくる。今後も精神面のサポートとしてスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーと連携してサポートしていく。事故発生前に予防できるよう、環境や生徒達の意識を整えていく。
施設管理	施設設備の点検と保守・改修の年間計画実施した改修工事等	樹木の剪定、教室等の床修理など多くの修繕・修理を実施した。	B	樹木の剪定が行われた。教室内のロッカーや床の修理など、早めに対応したい。
省エネルギーの取組	教職員の意識及び実践	基本的には教職員全体に省エネについての呼びかけが行われ、了承されているが各人の意識はかなりばらつきが大きい。より数値を示しながら周知徹底を図ることが必要である。職員会議でのプリントの削減に取り組んだ。	B	さらなるデジタル化を図り、紙媒体での連絡などを削減していく。省エネに対しての意識付けができていっているので、さらに対応策などを検討したい。

学校法人育英学院 サレジオ小学校	
令和6年度・2024年度 学校自己点検評価表	サレジオ小学校

本校の教育方針	児童の総合的成長を最大限に促進させるよう努める。特にキリスト教精神に基づく人間教育に力を入れる。豊かな自然環境と少人数制の中で学習を中心にするとともに、多彩な年間行事での教職員との密な関係性を通して共に成長することを培う。聖書に基づくカトリックの精神によって、神の存在と深い人間理解に基づき、個人の成功のみでなく、自己に責任を感じ、良き社会人として貢献できる人になるように育てる。
教育の特色	サレジオの創立者ドン・ボスコの予防教育法である、①本人の納得を得、本人の判断で決定していけるよう「理性」に訴えること、②教職員側からのわかりやすい優しい対応による伝わる「愛情」、③神のみが本当のことを見ておられることを意識し、そのまなざしの中で生きることが促す「宗教」、の三つの柱を特色とする。教職員が共にいて支えるアシステンツァを通して、教室での学習のみならず、学校生活の全てを通して予防教育法を実践する。

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況	評価	取り残した課題
宗教教育	校内の宗教的雰囲気の醸成	司牧部会を定期的に行い、マリア祭(5月)・プール開き(6月)・慰霊祭(11月)・クリスマスの集い(12月)・ドンボスコミサ(1月)などを開催した。信徒児童生徒の集まり、練成会も実施した。赤い羽根共同募金をお手伝いした。	B	相手に心を開き、相手の気持ちを推しはかる心を育む。そのため行事なども考える。
		食堂に宗教的掲示を常設するとともに ポスターなども定期的に張られ聖書のみ言葉やドン・ボスコのことばなどが伝えられた。待降節には、昇降口階段上にアドベントカレンダーが貼られ、クリスマスツリーは昇降口の上下に2台設置した。小学生、保護者のバイブルクラスが定期的に行われた。	B	より一層、効果的にキリスト教的な価値観が伝わるような雰囲気を大切にしていきたい。
教科指導	①基礎学力向上のための充実した授業の実施 ②教育効果を高める教育課程の作成 ③児童の自主的学習態度の育成	①学級担任だけでなく、教科担当の教員とも連携し、児童の実態に合わせた授業内容を構成するように努めている。個の学習活動の時間を確保できるように実施している。 ②年間指導計画を基に、児童の学習における習得状況に合わせて授業の内容を調整し、児童の確かな学力に繋がるように意識している。 ③発言などで授業に参加しやすい環境の中で、児童自身が学びについて自分事と捉えられるように学習活動を構成している。少人数学級の特長を活かし、自らの疑問や問い、既習内容の応用などを持ち寄って学習に参加する児童の姿勢から、自主的に学習に向かう様子が見受けられるようになってきた。	B	一斉指導をしていく中で、今年度も児童個人の学力の差が出ている子への対応は、個別指導等で学校のできることを考え、家庭での協力ももらいながら進めてきた。学級で一斉授業をしていく上でも、今後も検討・研究していく必要がある。宿題を取り組む姿勢や授業への関心、自主的な学習態度については、低学年の頃からの声かけや価値づけで醸成されるものだと考える。学校全体で意識化していくことを目指したい。
進路指導	自己実現への意欲と実力の寛容	児童及び保護者に 自分の進路選択への心構え・他児の進路の尊重や気遣いなどを繰り返し話をしてきた。進学先が決まった後は 縁のあった学校に期待をもって 前向きに進学することができるよう 一人一人に声をかけた。積極的な受験指導については 本学が目指す学校像とは合わないとの考え方について十分なご理解を得て 各ご家庭が主導されるよう保護者会を通して話をしている。	B	本年度も、感染症への危惧 埼玉県私立中受験から、受験前の欠席が多くなった1月最終週は出席率50%。欠席児童との学習状況・学級活動などの情報共有、出席児童の少人数学級での過ごし方に配慮が必要である。受験準備のための長期欠席をどのように減らしていくかが課題である。
生活指導	基本的な生活習慣の定着	自由な雰囲気を大切にしながらも 挨拶・時間を守ること・言葉遣い・片付け・手洗いなど、丁寧な指導を心がけている。個人差なども教員間で共有し、一人ひとりへの言葉かけ・アプローチを日常生活に取り入れるようにしている。 また、年間通して、感染症の対策として(体調不良の際のマスク着用)・手洗い・咳エチケットについて 繰り返し注意してきた。	B	TPOに合わせた言葉遣いを指導する。 時間を守ることについては、声をかければ概ねできているが、自主的に判断し動けるよう指導していきたい。

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況	評価	取り残した課題
国際交流	外国語に興味・関心を持つ児童の育成・支援と海外との交流	今年度も、外国語活動(英語)3・4年で週1時間 外国語科(英語)5・6年で週2時間で授業を行った。海外との交流については、今年度も特に話合っていないのが現状である。	B	「英語ができる」ではなく「英語に興味・関心を持つ」を基本にし、外国語(英語)への興味・関心が損なわれないように、今後も留意していきたい。
研究・研修	学校内外研修の計画	今年度も 春と夏に校内研修会を開き 校内の問題について協議する機会をもった。また、SC・SSWの相談室での相談を持ち寄り 全員で共有し指導に生かすことができた。また、子どもの発達や合理的配慮などについてどのように対応していけるのか検討する時間を定期的にもった。	B	今後も講師を招いての研修会を取り組みたい。発達に課題を持っている児童と、それを巻き取る状況について、SC・SSWとも連携することができたが、引き続き職員間での共有をしつつ取り組んでいく必要がある。
家庭・地域との連携	開かれた学校	学校HP・校長講話・面談・学校通信・学級通信・保護者会等を通して 保護者の理解と協力を得られるよう発信・対応をしている。 保護者会では、全体会・学年会ともに、4月・7月・9月・12月・3月に実施した。遠足は春実施(1・2年合同/3～6年合同)。体育祭は、小学校・中学校による合同実施。水泳指導は、低学年は各学年で。その他の学年は2学年合同で行った。キャンプは、全学年校内で実施することから、【サマースクール】と改名し、低・中・高学年に分かれて実施。4年生からは1泊校内で寝泊まりを行った。6年生の広島修学旅行は、今年度も2泊3日で実施。文化祭は、体育祭同様、小学校・中学校合同で実施した。音楽会は、保護者鑑賞のもと全学年同日で開催。入学式は、全学年参加での実施。卒業式は、前年度同様、4年生と5年生の参加とし、卒業年次の家族については特に人数制限を設けなかった。学校HPに設けられた「小学校保護者へのお知らせ」というコーナーを有効に活用できた。一斉メールも有効に活用した。学校説明会は 第一回5月・第二回6月・第三回7月・第四回9月と4回実施した。 また、校外では、中央線沿線私立小学校合同相談会(会場:明星小学校)と西武沿線合同説明会(会場:自由学園小学校)に参加した。東京私立小学校展(会場:新宿NSビル)は、資料参加とした。	B	広報・告知・発信等に活用できるメッセージボードを正門に設置し、有効に活用できるよう配慮した。また、募集要項は、校内説明会や校外説明会に間に合うように、訂正を加えながら部数を業者に依頼した。OB・OGの会のオリーブの会では、同窓会会報も年に1回発行されるだけでなく、文化祭模擬店にも携わるようにした。今後も、できることは何かを考え取り組んでいきたい。
安全管理	①防災避難訓練の実施 ②防犯訓練の実施 ③安全点検	昨年度同様、春休み研修中に教職員のAED訓練と、今年度は消火訓練・通報訓練の2つを実施した。5月避難訓練(不審者想定)と引取訓練(同日)、9月の避難訓練(地震想定)と配給訓練、1月の避難訓練(火災想定)を行った。また、前年度の続き学内の剪定に取り組み、危険箇所をなくす取り組みをするとともに、学内の危険箇所について教職員から児童への注意喚起を促した。	B	今後も消防署や警察と連携をとりながら、通常の避難訓練や講習会を実施したい。降雨時・降雨後など濡れているデッキ・石畳などを走る 見通しのない曲がり角などを走って通り抜ける ガラス越しに押し合う等、危険性が高い遊びや生活の様子について、児童に注意を促していきたい。

評価項目	年度目標	取組結果・進捗状況	評価	取り残した課題
健康管理	①校内での事故防止のための環境整備 ②相談活動の充実 ③手洗いの励行	①階段近くで走る・見通しがきかない曲がり角を走る抜けるなど危ない様子が見受けられるので注意するとともに見守っていく。 ②心と体の相談を受けSC/SSWと密に連絡を取り、担任との話し合いの場を設けるなど報告・連絡・相談に取り組んだ。 ③全学年、SCによる全員面談を実施した。	B	SC,SSWと担任の先生の情報共有の時間をもう少し確保できたらと考える。発達障害の子どもたちへの具体的な対応・適切な対応のアドバイスをいただける機会もさらに設けられたらと思う。
施設管理	①施設設備の点検 ②保守・改修の年間計画 ③実施した改修工事	消防設備の整備点検は学期に1回行われている。小学校エリアの定期的な除草剪定・樹木剪定や正門広場の剪定等が行われた。また、各小学校施設の修理や修繕も、不定期だが行っている。	B	今後も、各施設の点検等を行い、できるだけ早く修理・修繕を行いながら、学校生活がよりよくなるよう配慮していきたい。
省エネルギーの取り組み	教職員の意識及び実践	空き教室になる時の 戸締り・消灯・エアコン・床暖房など 継続して言及してきた。	B	特別教室への移動の際、戸締まり・消灯を各個人が意識的に小まめに実行できるように、習慣化していきたい。

学校法人育英学院 目黒サレジオ幼稚園  
2024 年度学校自己点検評価・反省

目黒サレジオ幼稚園

園の教育方針	創立者(聖ヨハネボスコ)の教育理念である、「理性」・「宗教」・「慈愛」を根本に予防教育の実践。家庭と密接に協力しながら明るく、暖かい雰囲気作りを目指す。又、園児自身が愛されている体験を通じ、自ら神と人を愛する心、豊かな品性と国際的素養を身につけ円満な人格形成を目指し、明るい社会人になるよう育成する。
保育の特色	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予防教育の実践</li> <li>・ カトリックの教育を通して善悪の判断、思いやりの心・けじめのある態度などを幼児期にしっかり伝える。</li> <li>・ 一人ひとりの園児の理解とその子にあった指導を心掛ける。</li> </ul>

評価項目	取組目標	2024 年度目標方針の内容	評価・反省
保育課程の構成と実施	幼児教育要領の理解と教育課程の改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修・東私幼・目黒私立幼稚園協会主催の研修への参加促進</li> <li>・ 教育関係の冊子による情報収集</li> <li>・ 教育要領の理解</li> </ul>	<p>オンライン研修も多く開催され、各自関心がある内容を受講できた。</p> <p><b>B</b></p>
	本年の伝統や特色ある保育の反映	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ カトリックの教えに基づく宗教教育の実施</li> <li>・ 宗教行事（聖母祭・クリスマス会・祈りの集い・創立者の祝日</li> </ul>	<p>園児への教えと共に、宗教に馴染み薄い職員に対して要理を実施。宗教行事や祈りの場を持つ中でカトリック園ならではの雰囲気を出せた。</p> <p><b>A</b></p>
	幼児発達の度合いに応じた指導計画と実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年度初めの年間計画の作成、及び学期毎の見直し園児の状況と内容の調整・変更</li> </ul>	<p>毎年の計画だとしても年度初めの検討は必要。状況に合わせた変更などその都度考慮できた。</p> <p><b>A</b></p>
	一年の園行事の実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年間予定を決め、行う</li> <li>・ 四季を感じられる内容を取り入れる</li> <li>・ 各行事については、園長・主任・担当者が内容を検討し、実施</li> <li>・ 保護者の会(P T A)については園長・主任が参加し運営の方向付け及びサポートを行う。</li> </ul>	<p>行事の意味合いを考えながら、必要な物を精査し、運営していくことができた。</p> <p><b>A</b></p> <p>保護者の会に関しては、負担軽減をしながら園と共に歩む組織作りを検討し、新体制を始めるまでに至った。</p> <p><b>A</b></p>
保育の研究・研修	園内外の研修に積極的に参加し保育の資質向上をはかる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 目黒私立幼稚園協会の研修に参加</li> <li>・ 研修へ各自参加し報告と分かち合い</li> <li>・ (各グループ主催の研修1回・全体会1回)</li> <li>・ 年度始めの東京教区新任・園長・主任研修に参加</li> <li>・ 全国カトリック幼稚園研修に参加</li> <li>・ 学期毎の園内研修</li> <li>・ 職員研修</li> </ul> <p>「小児科医からみたこども観」細谷 亮太</p>	<p>目私幼の研究も園内のみで行い研修会日はオンラインであった。</p> <p><b>A</b></p> <p>年間で一つの研修(オンラインも可)に全員が参加。講師を招いた園内職員研修を実施。</p> <p><b>B</b></p>

評価項目	取組目標	2024 年度目標方針の内容	評価・反省
保育者・地域社会との連携	<p>近隣小学校との交流協力・連携</p> <p>近隣中学校との連携</p>	<p>年長組は 7 月にサレジアン国際学園目黒星美小学校を訪問</p> <p>2 月に星美小の教諭による保護者向けの講演会を実施「小学校とは」</p> <p>運動会公開授業・保育への参加・見学</p> <p>中学生の「職業体験」を実施</p>	<p>星美小の教諭による講演会は3学年問わず希望者の方が多く参加。 A</p> <p>子どもたちによる星美小の訪問と見学を実施。良い機会となった。 A</p> <p>職業体験として3日間中学生を受け入れ、保育者の仕事を体験する機会を提供</p> <p>A</p>
	<p>地域の要請に応えた子育て支援 (預かり保育等)</p>	<p>園児の預かり保育の実施</p> <p>18 時までの預かり</p> <p>課外教室「スポーツ・サッカークラブ」</p> <p>課外教室「ジャクパ」</p> <p>夏期特別預かり保育</p> <p>夏期休みのうち 15 日間実施</p> <p>9 : 00~14 : 00 の預かり</p> <p>未就園児対象のたんぼ組の実施</p> <p>親子参加型、前期と後期で募集を分ける</p> <p>一日 2 回戦 1 回につき 10 組の固定メンバー 5 月から開始</p>	<p>預かり保育は需要が多く、18 時までの実施は保護者から評価されているが申し込み枠に入れない声多数の為、体制を再検討する必要あり。</p> <p>B</p> <p>スポーツ課外教室は体育指導の先生中心で開催されており、園児保護者からの信頼が厚く体を動かす良い場となっている。 A</p> <p>未就園たんぼ組は親子で参加できる安心感もあり、園の雰囲気を味わえる事から入園希望に繋げることができた。 A</p>
	<p>保護者との連帯行事情報発信等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一斉メール使用(災害などの緊急時)</li> <li>手紙の配布</li> <li>保護者の会主催の行事「ファンサレ」事前準備及び開催</li> </ul>	<p>就労している保護者の増加に伴い年間スケジュールを把握したいニーズがあり、アプリを活用して周知した。</p> <p>B</p> <p>保護者の会主催企画は外部業者を招いて科学マジックショーを実施。又保護者バンドを組んでこどもを喜ばせていた。保育日半日を受け持つ難しさと役員に仕事が偏ってしまい、課題点も残った。</p> <p>B</p>
安全管理	<p>防災・避難訓練の実施</p> <p>防犯訓練の実施</p> <p>安全点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>園児の行う避難訓練(毎月)実施(保護者への引き渡し訓練を含む)</li> <li>防犯訓練は学期毎に実施</li> <li>園内での訓練と警察の指導の元で実施</li> <li>園児の不審者訓練を実施</li> </ul>	<p>今年度より子どもにも防犯訓練を実施。不審者が侵入した際の約束事や避難方法を練習。学年に合わせた内容で行う事で恐怖心を持たずに非常時に対応出来るよう意識付け出来良かった。</p> <p>A</p>

評価項目	取組目標	2024 年度目標方針の内容	評価・反省
保健管理	幼児の健康に係る 年間指導計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗い、換気の徹底</li> <li>・園児の生活リズムや健康管理を徹底するよう保護者にも依頼。教職員も園児の体調の変化に気づくよう視野を広くする。</li> <li>・各保育室に吐しゃ物対応グッズ設置・点検</li> <li>・看護師との情報共有</li> </ul>	<p>コロナ同様、丁寧な手洗いの指導実施。換気の徹底、健康管理の徹底、教職員の体調不良にもきちんと休めるよう、職員配置も考慮した。</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>看護師の方のサポートの力が大きく、職員に安心感がある。</p> <p style="text-align: center;">A</p>
	健康診断の定期的な 実施と把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内科・眼科・歯科検診</li> <li>・身長・体重の計測 (2 ヶ月毎、測定)</li> </ul>	<p>特になし</p> <p style="text-align: center;">B</p>
施設管理	施設・設備の点検と 保守・改修の年間計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎朝、グラウンド・園庭整備 危険個所の視診</li> <li>・毎月、園庭の遊具点検</li> <li>・建物の角、赤コーンの設置飛び出し防止、出会いがしらの衝突の予防</li> <li>・トイレのドアの表面 様々な塗装 雨漏り補修など…多岐にわたる</li> </ul>	<p>漏電遮断器が下りる、突然の停電、電話も不通になる事が年度内に数回あり対応に困惑した。又雨漏りにより、園舎内の内壁から水の滲出があり、用具の設置場所を変更。又2階保育室及び廊下の天井が剥がれてきて対処など、老朽化に伴い設備、環境の安全面にいつも以上の配慮が必要であり、現状を維持して保育を行う事に神経を使っている。</p> <p style="text-align: center;">C</p>
	必要な補修・改修工事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・固定遊具(鉄棒・ブランコ雲梯のゴムマットなど)の補修</li> <li>・保育室の修理・雨漏り修理</li> <li>・園庭樹木の剪定</li> </ul>	<p>トリムトライの遊具が経年劣化により修理が必要。怪我に繋がる事案もあった為、手入れをしながら対応中。</p> <p style="text-align: center;">B</p>
省エネルギーの 取り組み	教職員の意識及び 実施	<p>エコ活動 節電・節水・節約を心がける リサイクル (紙・電池・資源など) 印刷備品の節約 ゴミをなるべく減らす意識</p>	<p>電気・水道・ガス使用料金の高騰で配慮が必要な為、教職員間で、電気やガスの使用方法を共有した。</p> <p style="text-align: center;">A</p> <p>資源を大切に使う意識を子どもに言うだけではなく、大人の教職員も守る必要性を感じた。若干の職員間の意識の温度差に課題、共通の認識を持っていきたい。</p> <p style="text-align: center;">B</p>

## <2024 年度を振り返り>

年度始めに特定の園からの転入園希望が複数あり、対応は慌ただしかったものの、当園を選んで下さったことに感謝しつつ受け入れをしてスタートを切った。年度途中も園見学、転入面接の希望があった際には個別に対応し、受け入れ態勢の見直しを図った。一方、2025 年度に向けての園児募集は今まで以上に厳しい結果となり、目黒区の幼稚園入園希望者が減少しつつある事を踏まえつつも、今後の園児獲得に向け必要な事、どのような対策を取るべきかを早急に検討し、満3歳クラスの立ち上げを決意し準備に取り掛かったり、園の存在や魅力が広く知れ渡るよう親子向けの活動「サレジオひろば」、未就園向けの活動を増やす事にした。また、ある卒園生の活躍が職員間で大きな喜びのニュースとなり、今まで園で大切に育んできた多くのこどもたちの存在がかけがえのないものであることを再認識したと共に、今後も魅力ある園として在り続けたいと強く感じた1年であった。

保護者の園への関わり方のスタンスが近年変化しており、預かり保育又は課外教室を利用して園に長時間預けたいニーズが増えている。また就労する家庭も多くなっていることから、「保護者の会」の見直し、刷新に取り組んだ。園行事への参加や、係としての役割負担を減らしつつ、組織の編成を組み直し、1月に「保護者の会臨時総会」を開催し、新たな1ページを踏み出したことは時代やこどもを取り巻く環境の変化に合わせた大きな変革となった。

その他にも保育時間の変更や全日園庭開放の実施など、今年度は園として決意をして動くことが多く、職員間でも戸惑いや今後の園への不安を持つ者もいたと思われる。変えていくべき事と、継続して守っていく物を熟考しながら、園全体で同じ方向を向いて歩みを進めたいと願っている。

施設・設備面において経年劣化や老朽化の為、不備が生じたり、修理の対応に追われる事が増えてきており、実際の保育や行事に際して不都合な場もあったことから建て替えへ向けて前進する事を切望している。

採用に関し、35校ほどの大学に求人を出したが1名も採用希望者がおらず、新たな人材確保に今後も大きな課題が残る。

### 【2024 年度：学校関係者評価】（保護者の会会長）

保護者の会役員という立場で一年間園と関わらせていただいたが、先生方の子供たちを大切に想う気持ちや、細やかな気配り、日々の保育で培われた豊富な知識など、より園について深く知ることができ、また知れば知るほどこの園に我が子を通わせてよかったと誇りに思える一年間だった。誰にでも自信を持って勧めることができる園であると改めて感じる事ができた。

在園生はもとより卒園生たちの優しさを感じ取れる機会が多々あり、先生方から受けた愛情や宗教教育が子供たちの心の中で財産として在り続けていることが感じ取れる。

保護者の会主催の行事「ファンサレ」では、保育や行事の企画運営に不慣れな保護者たちに沢山の知恵を貸して下さったおかげで無事に終えることができた。役員の仕事の負担が大きいという声も上がったが、それ以上に経験として得たものは大きく、保護者間の絆も深まり一生の思い出となった。このようなチャンスを与えて下さったことに深く感謝している。

保護者に向けてグーグルフォームのアンケートを実施するなど、保護者と子供たちが円満かつ楽しく園生活を送ることができるよう様々な新しい試みを取り入れてくださり、保護者たちから高い評価を得ていると感じる。

入園希望者が年々減少しているが、保護者の会の活動に於いては、保護者の負担を軽減しながら園と協力・連携していく新体制となったことにより、今のニーズに合った幼稚園として保護者に認識され入園希望者が増えていくことを願っている。

学校法人育英学院 足立サレジオ幼稚園  
2024年度学校自己点検評価目標

園の教育方針	カトリックサレジオ修道会の教育方針(ドン・ボスコの精神)に従って宗教・愛情・納得を土台にした教育を行う。 「子ども達を愛するだけでは足りません。子ども達が自分たちが愛されていると分かなければなりません」(聖ドン・ボスコ)
保育の特色	学年の目標を明確に決めて1年間その目標に向かって成長を見守り、それぞれの個性に沿った成長過程を受け止める。担任以外の先生にもクラスの様子や子供の成長の様子を伝え、全教職員で見守り、援助してもらうことでより目の届いた保育となる様務める。縦割りの時間を大切にし異年齢児と一緒に過ごすことで年下の子を思いやり援助したり、上の子を目標にしたりする向上心を養う。

評価項目	取組目標	2024年度目標・方針の内容	備考	ABC評価
保育課程の編成と実施	幼児教育要領の理解と教育課程の改善	<p>満3歳児: 基本的な生活習慣を身に付け、安心して園生活を過ごすように、保育者と信頼関係を育む。自己主張を受け止め、共感や共有する経験を通して友達との関わり方を知る。</p> <p>年少児: 園での生活を安心して過ごすことができるよう、一人ひとりの思いを受け止め保育者との信頼関係を基盤に、自分の居場所や自己表現ができるように関わる。基本的な生活習慣や園での約束事を身に付けられるように声掛けや身支度を行い、できた喜びを味わい自信を持って行動できるように援助を行う。</p> <p>年中児: 保育者や友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり友達の気持ちに共感しながら言葉で伝え合うようにする。</p> <p>年長児: 友達との関わりの中で自分の思いや考えを様々な方法で表現したり言葉で伝える。また相手の感じていることや気持ちを聞いて認め合いながら遊びや生活を進める。</p>	<p>満3歳児: 身支度や衣服の着脱等基本的な生活習慣について丁寧に伝えたことで身についたと感じる。保育者と信頼関係を深めることで友達との関わりも増え、自ら遊びを提案し遊ぶことができた。</p> <p>年少児: 初めの頃は緊張をしている子やなかなか遊びに入ることができない子もいたが、1年を通してのびのびと安心して過ごすことができていたと思う。また、相手の気持ちを受け入れながら一緒に遊ぶ姿が見られたが、自分の気持ちを言葉にすることが苦手な子が多く仲介や援助を行いながら伝わる嬉しさも感じていった。</p> <p>年中児: 進級当初はしてはいけないと頭ではわかっていても叱咤に手が出してしまう姿が見られた。次第に言葉で伝え合い話し合うようになってきたが、友達の気持ちに寄り添えず自分の都合のいいようにしようとする姿も見られるため引き続き見守りが必要。</p> <p>年長児: 進級当初から夏頃までは自分の思いを表現することが難しかったり、気持ちのすれ違いがあった。毎日の保育の中で外遊びや部屋遊び、サークルタイム、ゲームなど共同で行う経験を積み重ねていくなかで友達存在を認め、励ましあうことが増えていった。次第に主体的に遊びや生活に取り込む姿も増えていった。</p>	A A B A
	本園の伝統や特色ある保育の反映	<p>満3歳児: 神様の存在を知り、親しみが持てるように伝えていく。聖歌やお祈りをする経験を通して感謝の気持ちや思いやりの気持ちを育てる。</p> <p>年少: お祈りや聖歌、教会での話を通して思いやりや感謝の気持ちが持てるよう神様について丁寧に伝える。また、一人ひとりが神様に愛されている存在だということを伝え、実感を持てるよう言葉掛けを行う。</p> <p>年中: 日々のお祈りや教会での話を通してお祈りをする意味や大切さを知り、保育の中でもその教えを取り入れ振り返りながら、神様に向き合う時間を大切にしていく。</p> <p>年長: 毎日の保育や教会でのお話の中で神様に愛されていることを感じられるように伝え、人や自然を大切にしたり感謝する心をもって一生懸命取り組む心、仲良く協力する心を育てる。</p>	<p>満3歳児: 絵本や教会を見に行くことで神様の存在を伝えていった。聖歌やお祈りを日常的に行い手を合わせる経験は沢山できたが、神父様のお話を聞く経験を増やせたらよかったと思う。</p> <p>年少: お祈りや聖歌を通して、思いやりや神様について丁寧に伝えることはできたと思う。神様に愛されている存在だということは伝えてきたが実感してもらえるところまではつながらなかったように感じる。</p> <p>年中: 毎日のお祈りの時間を大切にしてきた。教会で神父様のお話を聞いた後は子供達が理解しやすい言葉に置き換えて振り返りをした。</p> <p>年長: 植物の栽培や園庭での自然の移り変わりを通して、神様から生かされ、一人ひとりが大切な存在であることを感じられるよう伝えた。聖劇では、ご生誕の本当の意味を神父様から聞き、知ることで真摯にまた喜びを持って取り組むことができた。</p>	B B A A

評価項目	取組目標	2024年度目標・方針の内容	備考	ABC評価
保育課程の編成と実施	幼児の発達の度合いに応じた指導計画と実践	<p>満3歳児:他者の存在を知り、好きな遊びを共有する経験から他社の存在を認め、関わりを楽しむ。また、主体性を育み自分でできたことで達成感や自信が得られるようにする。</p> <p>年少:日々の保育の中で自主性を大切に、子ども達の想いや考えを汲み取り一緒に追い追及できるよう援助する。また、出来たところは一緒に喜び気持ちを共感することで更なる達成感を味わい、自信を持って行動が出来るように働きかけを行う。</p> <p>年中:自分でできることは自分でしようとする意欲を大切に、見守っていく。又、日々の保育の中で主体的に子ども達が取り組めるように意見や提案を見逃さず、話し合う時間を大切にしていく。</p> <p>年長:みんなで協力したり、役割を分担したりしながら主体的に遊びや行事に取り組めるようにしていく。また、活動や遊びの中で子ども達の思いや考えを聞き目標を持てるよう援助する。また、自然や身近な事象に興味・関心を持ち知的好奇心や探求心を高められる生活ができるようにする。</p>	<p>満3歳児:始めは、一人遊びが多かったが好きな遊びを通して他者の存在を知り関わりを楽しむことができた。できるようになったことを保育者や友達と喜び合うことで、自信や達成感に繋がった。</p> <p>年少:全体で大きな壁面を作るなど、子どもたちのやってみたいという気持ちをくみ取った活動をしていくことはできたと思う。また、友達同士で教え合う姿や、できたことを喜び合う姿なども見られ自信を持って行動ができる機会も多くなったと思う。</p> <p>年中:できるようになったこと、頑張っている子ども達がいることを紹介して自分のことは自分でやるように声をかけ励ましてきた。子ども達がやりたいことができるようにその都度時間の調整をしたり、話し合う時間を大切にできた。</p> <p>年長:子どもたちによる話し合いの機会を多く取り入れ、考えや思いを聞き、子どもたちが主体的にかつ目標を明確に持ち活動に参加できるようにした。また、そのことで他者の考えを知り協力する気持ちが育った。朝顔やチューリップ、ヒヤシンス、サツマイモの栽培や収穫を通し、実際に土に触れたり、植物や昆虫、またプラネタリウム体験や毎日の空の様子を観察を通し、自然への興味関心を持ち探求心を育てることができた。</p>	A A A A
	一年間の行事の実施	<p>全ての行事において、コロナ以前の状況に戻すのではなく、昨年度の反省を活かして子どもたちの現状に合った取り組みをしていきたい。全学で行うほうがより盛り上がるものや、会場の関係で学年ごとに行うのが適切であったりするので行事ごとに考えて実施したい。保護者の会の協力についても役員の負担が大きすぎないように、その都度有志のお手伝いをしていただく方向にしていきたい。一学期:入園式、誕生会はふた月に一度の開催、春の遠足、マリア祭、ファミリーデー、プール遊び、夕涼み会、夏休み、ゆり組ワフワフフェスタ、二学期:引き取り訓練、運動会、バザー、ハロウィンパーティー、七五三の祝い、同窓会、クリスマス会、三学期:郵便屋さんごっこ・抽選会、豆まき、ゆり組お楽しみイベント、ありがとうの会、前夜祭(キャンドルサービス)、卒園式。このほかにも日々のクラスごとの活動を行います。避難訓練は大事なことなのでしっかり行っていきたい。</p>	<p>今年度より満3歳児クラスが始まり、満3歳児クラスと未就園児クラスが週5日通い、行事も今までよりできる範囲で参加する機会が増え、保護者にも成長を感じていただけたと思われる。全学年で実施できた行事は他学年との交流をしたり発表見ることによって一体感が生じたり盛り上がった。クリスマス会では2学年ごとに分かれることで保護者もゆとりをもって観覧できたように感じる。保護者の手伝いも無理のない範囲でお願いできたとと思う。</p>	A
保育の研究・研修	園内外の研修に積極的に参加し保育の質向上をはかる。	園内では園長の学期ごとの研修、臨床心理士による事例検討会、訪問指導の情報の共有。園外ではサレジオ会学校連合会の研修、サレジオ会事業所協働者の養成講座(年6回)、私幼連関係の研修、カトリック幼保連盟の研修。個人で希望する、また指定されて受講する研修などを適切に行って教職員の研鑽を支えたい。	園長の園内研修は学期ごとではできなかったが園外研修は積極的に参加できた	B
保護者・地域社会との連携	近隣の小学校との交流協力連携互恵のある交流	近隣の小学校との交流、協力連携互恵のある交流の実施。足立区の幼保小連絡会と協力し、年長園児が当該小学校にスムーズになじめる様に交流を通して実施する。近隣の小学校は江北小学校、扇小学校などがある。授業見学、行事見学、学校探検、給食体験、小学校教員の話しなど	運動会鑑賞会、給食体験、学校訪問などを通して小学校の雰囲気を知ることができ、期待を高めることができた。また、職員の意見交換では実際に幼稚園、保育園、小学校の直面している問題を共有することができ、目標をもって1年間を過ごすことができた。	A
	地域の要請応えた子育て支援(預かり保育等)	預かり保育は最近大変重要視されてきた活動なので、しっかりと行っていきたい。0.1.2歳児親子対象のいちごクラブは毎週実施できるように計画を立てた。また地域の必要に応えるために、二ヶ月に一回の「オラトリオ足立」を定着させ、近隣との交流を密にしていきたい。その中から新たな必要が出てくればそれに応える活動を展開していき、地域に必要とされるサレジオ幼稚園にしていきたい。	いちごクラブは実施の時間が30分長くなることで自由遊びだけではなく製作など季節を感じる取り組みなどもできた。オラトリオ足立も引き続き活動が見受けられた。	A
	保護者との連携行事情報発信等	レーザーキッズのアプリなどの活用を強めて遅滞なく情報が伝わるようにしていきたい。同時に電子媒体によってペーパーレス化を昨年度よりさらに進めて省資源に努めていきたい。HP以上にインスタグラムも最大限活用して若いお母さんへのアピールに努力する。そして入園希望者を増やしていきたい。見学希望の方には引き続き丁寧に対応を行っていく。保護者の会の活動について負担感を軽減して昨年同様有志による活動にしていきたい。	レーザーキッズのアプリの活用により、配布物のみではなく保護者からの申し込みなどもペーパーレス化でき、情報を伝えるのも滞りなくできた。また、SNSも以前より活用し閲覧者が増えた。見学の問い合わせもありその都度対応を行った。	A
安全管理	防災非難訓練の実施 防犯訓練の実施 安全点検	防災避難訓練は毎月の義務なのできちんと行っていきたい。防犯訓練も日頃の防犯意識をもっと高めていく。満3児クラスには無理のないように範囲で訓練に参加できるように日々の保育の中で周知、練習を重ねていく。保育室増築工事に伴い登園、降園時間は2か所開門の必要がある為、必ず保育者が立ち、不審者には十分注意する。また工事期間中は保育の妨げになるようなことが起こらないように、また怪我や事故などに気を付けアーキビジョンとも密に連絡を取りながら進めていきたい。	避難訓練は毎月実施できた。3月は担任にも知らせずに実施して急な対応の練習になった。増築工事期間の登降園をはじめ園生活の支障のないように実施できた。完成後に増築部分の切れ目から雨漏りがあり、壁紙の張替えの修繕はまだできていない。	B

評価項目	取組目標	2024年度目標・方針の内容	備考	ABC評価
保健管理	幼児の健康に係る年間指導計画	成長観察の記録、内科検診、歯科検診を園医や提携医院と確実に行っていく。6ちゃん活動も行う。	変わりなく実施し、欠席した子どもも改めて検診を受けられた。	A
	健康診断の定期的な実施と把握	定期的な健康診断を年間行事の取り込んで確実にを行う。	実施し、子どもの健康状態を把握することができた。	A
施設管理	施設・設備の点検と保守・改修の年間計画	エレベーターの保守点検、電気設備、消防設備、警察との連絡設備等の点検を確実に行う。新園舎になって11年目を迎えるのでエアコン、電気などの設備の改修計画を立てる	エアコンはホール1台、年長部屋、2階廊下の3台の入れ替えを実施できた。防犯カメラの不具合があり計画にはなかったが、足立区の補助金を利用して新たに2ヶ所増やして計6ヶ所のカメラの設置を行った	A
	実施したい改修工事等	満三歳児対策のための保育室の増設工事、西日、荒天時の雨の吹き込み防止のためのオーニング工事、ひよこ組保育室入口の段差解消のためのセメント土台工事などを行う。土ぼこり対策等のため園庭芝生化工事	保育室の増築工事は法人本部と協力しながら進めることができた。オーニング工事、ひよこ組保育室入口のお段差解消も行うことができた	A
省エネルギーの取組	教職員の意識及び実践	暑さ寒さについて、大人と子どもの違いがあることを考えて、子どもの状況に合わせて取り組む。省資源の意識と同時に自然の豊かさ楽しさを味わえるように、自然豊かな幼稚園をつくっていきたい。	厳しい暑さの日は熱中症対策をしっかりおこなった。電気、水道の無駄使いにならないような共通意識を持つことができた。自然豊かな園を作る為に花壇に花や野菜を育てることができたが、園庭の芝生化はできていない。	B
学校関係者 評価委員会の評価		日々のお祈り、子どもにも覚えやすい聖歌を通して、身近な人への感謝の心、思いやる心を学べ子ども自身に優しさが見付いた。また、幼稚園の中で盛んに植物や野菜等の食べ物に触れる機会があった。子ども達が興味を持つようから栽培し育ていく過程を観察し最後には育てた野菜をみんなで食べた経験は子ども達にとって貴重な経験になった。		A

記入上の注意

1. 令和 年度に取り組む課題をできるだけ詳細に記入してください。
2. 令和6年度に取り残した課題をどう解決し実行するかを記入してください。
3. 書ききれない場合は別紙に「評価項目名」を書いて本票に添付してください。

学校法人育英学院 町田サレジオ幼稚園

2024年度学校自己点検評価

町田サレジオ幼稚園

園の教育方針	<p>カトリック精神をもとにサレジオ教育の創立者聖ヨハネ・ボスコの教えである</p> <p>愛情（信頼） 道理（納得） 信仰（祈り）を基盤とし</p> <p>アシステンツァ（寄り添う教育）を通して心の教育（明るい心、思いやりのある親切な心、素直で正直な心）を行う。</p>
保育の特色	<p>南多摩の自然豊かな環境の中でのびのびと活動する。</p> <p>静と動の活動をバランスよく取り入れ。サレジオ高専との連携を持ち、理科系分野への興味関心を深める。</p>

評価項目	取組目標	2024年度目標方針の内容	課題・反省
保育課程の構成と実施	<p>幼児教育要領の理解と教育課程の改善</p> <p style="text-align: center;">A</p>	<p>満3歳、年少：園生活になれ、一人ひとりが安心して過ごすと共に基本的な生活習慣を少しずつ身に付ける。</p> <p>年中：先生や大勢の友達とかかわって遊ぶ。基本的な生活習慣を確立する。</p> <p>年長：様々な経験を通して達成感を得、希望を持って就学へつなげる。異年齢児との関わりを持つ中で年長児として自信を持って行動する。</p> <p>※教育要領の基盤幼児期の終わりまでに育て欲しい姿10」を本園の教育の実態と即して図式化し全職員とともに理解を深めると同時に小学校との連携を蜜に取る。</p>	<p>満3歳は年度後半から2クラス編成。</p> <p>年少：2クラス編成。初めてのことに不安戸惑いがないよう個人差を考慮し楽しみながら行えるように配慮した。</p> <p>年中：2クラス編成。2クラス常に年間を通してよく協調、連携し、園児が多い学年ではあるが他学年の担任もサポートし協力できた</p> <p>年長：2クラス編成。特に毎週1回行う縦割りクラスでは年下の子どもたちの面倒をよく見て行事でも年長らしさを随所に発揮していた。※10の姿を元に幼小連携を深め入学する時に戸惑うことがないようにスムーズにアプローチができるように努め支援シート等を通して小学校との連携をとった。（年長のみ一人一つの机を配備している。就学への緩やかな接続に向けて）</p>

	<p>本年の伝統や特色ある保育の反映</p> <p>A</p>	<p>年少：日々のお祈りや宗教の時間を通して神様を信じる心、家族や友達を思いやる心を育てる。</p> <p>年中、長：神様の存在やお祈りを通して優しい心を育む。</p> <p>年中、長：サレジオ高専のイノベーションコモンズの教授と連携を通し、非認知能力の芽生えを助長するために五感の教育を行う。</p>	<p>年少 宗教の時間で神父様になれ静かに話が聞けるようになった。</p> <p>年中、年長 聖母祭や七五三の祝福式を通して神様を身近に感じ感謝することが身につけてきている。</p> <p>年中、年長 子どもたちが身近に感じることができ五感について実体験を通してわかりやすく話していただきここに興味関心が深まった。</p>
<p>保育課程の構成と実施</p>	<p>幼児発達の度合いに応じた指導計画と実践</p> <p>A</p>	<p>満3歳、年少：園生活のリズムや人的な環境になれ、自分の好きな遊びを通して友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わえるように保育者や補助員を介しながら様々な関わりを持つ。</p> <p>年中：いろいろな遊びに興味を持ち保育者や友達とかかわり個々の力を発揮して活動に取り組む。</p> <p>年長：友達とさまざまな活動を楽しみながら、自分の思いや感じたことを言葉で伝え合い豊かに表現しあいながら年長としての成長を認め合う。</p>	<p>満3歳、年少：入園当初は幼さで集団への経験の浅さから来る行動も多く見られた。年度中盤ごろからどの子も落ち着いて活動に取り組めるようになって来た。満3歳児はクラスの子どもたちは年度後半になると集団としての行動ができるようになり12月の発表会も参加できた。</p> <p>年中：集団生活になれ基本的な生活習慣も確立し、より活発に活動できるようになる。好天の日は一日のうちで必ず外で遊ぶ時間を設け静と動のメリハリがつく活動ができた。</p> <p>年長：2クラス共、年長としての自覚がありまとまっており、年中、少への良いお手本が示せた。クリスマスの発表会では年長らしく立派に「聖劇」を演じることができた。</p>
	<p>一年の園行事の実践</p> <p>A</p>	<p>入園式、こどもの日のつどい、春の遠足、聖母祭、ファミリーデー、引き取り訓練、運動会、年長デイキャンプ、遠足、七五三の祝福式、クリスマス発表会、お餅つき、郵便やさんごっこ、豆まき、お別れ遠足、ひな祭り、お別れ会、卒園式、隔月の誕生会 サッカー、野球、デフサッカー交流と体験。</p>	<p>季節ごと、また日本の古くからの風習に基づく行事を多く経験することで次世代への伝統の継承の必要性を確認する。(行事にまつわることの紹介 例こどもの日→しょうぶ湯 聖母祭→徳の花 七五三→千歳あめ クリスマス→プレゼピオ、アドベントカレンダー ひな祭り→お雛様 など)</p>
<p>保育の研究・研修</p>	<p>園内外の研修に積極的に参加し保育の資質向上をはかる。</p> <p>B</p>	<p>保育スキル向上を目指し、私学財団や幼稚園協会主催の研修会などに参加。サレジオ家族研修に zoom 参加。新規採用の教員にはできるだけ研修会へ参加させる。年長担任には支援シートに関する研修に参加し、小学校との連携に勤める。</p>	<p>特に夏休みには個々にスキルの上達に研修に励み、私学財団、私学幼稚園研修等は保育中も他クラスの職員の協力で研修に出、長期休みのそれぞれの経験年数に応じて研修を受けた。</p>

保護者・地域 社会との 連携	近隣の小学校との 交流協力連携互恵の ある交流.  B	園にもっとも近く年長の中で一番多く入学する小学校に出向き、校内めぐりを要請。副校長と年長担任間の連絡を取り実施日を2者間で調整する。	良い経験であった。一番身近な小学校であるため兄弟が在籍している子も多く、憧れや期待を持ってみてくれることができた。実際の小学校を見てくることで入学に期待が持て楽しみにしている姿があった。
	地域の要請応えた 子育て支援 (預かり保育等)  A	未就園児クラスのこばと組(親子分離)カンガルークラス(親子クラス)保育室開放(毎週月曜日)園庭開放。乳児保護者への支援(ベビーマッサージ、手型足型アート)エンジェルクラブ(1歳児親子)親子体操	エンジェルクラブ(1歳児親子)は在園児の弟妹も多いこともあり毎回盛況である。町田市の子育て情報誌に掲載することで情報が広まっていることと近隣の八王子市には子育てセンターに毎月の催しのお知らせを置いてもらっていることで周知ができ多くの方が参加して下さった。預かり保育は利用者の増加により複数で担当。
	保護者との連携行事 情報発信等  A	毎月の園だより、担任からのクラスだより、行事は担当者がイニシアチブを取り計画立案。保護者一斉メール配信。個人面談年2回 レーザーキッズによる配信	家庭との連携を深めるために文書での周知徹底。個人面談でコミュニケーションを深めることができた。
安全管理	防災避難訓練の実施 防犯訓練の 実施安全点検  A	避難訓練を毎月1回実施。避難滑り台の練習も行う。教職員も準備や進め方の研修を行う。年1回の引渡し訓練の実施。防犯訓練は警察と連携して実施。毎朝の遊具確認。園内点検。	年少：怖がらず、訓練に参加することを主体とし、防災頭巾をかぶる練習、訓練前の約束の確認を毎回し、訓練が身に付くようにしてきた。後半にはスムーズに行動ができるようになってきた。 年中：2階に保育室があるため安全にすばやく避難用滑り台を使う練習を重ねた。訓練には真剣に取り組んでいる。加配の子どもが多くいる学年ではあるが補助と担任が連携して安全に避難をすることができている。 年長：経験を重ねているので一斉に速やかに避難ができている 総合的な訓練の際には消防士の方から避難の速さ、避難する態度についてよい評価をいただいている。
保健管理	幼児の健康に係る 年間指導計画  A	目標の基本的生活習慣を身につける為の着替え、手洗いうがいハンカチの使用などの念入りな指導。感染症対策として特に手洗い、消毒をこまめにし、家庭での検温、体調が悪そうな子は園での検温をし、チェックする。暑い時期汗をかいたらハンカチで拭く。喉が乾いたら水分補給を行う事を適宜伝える、年長、年中児は自分でできるように指導。	年少：トイレ清掃、消毒をこまめにした。 年中長：気温によって衣服の調節ができるよう声かけをする。 自ら自分の体調や怪我について話せるように指導している。

保健管理	健康診断の 定期的な実施と把握  A	毎月の身体測定、園医による6月の歯科、内科検診の実施	毎月の身体測定、園医による健康診断の実施。卒園児には入園時からどのくらい背が伸びたかをひと目で実感できるように伸びた長さのリボンをはりお祝いのカードにして渡している。成長を実感できると喜ばれている。
施設管理	施設・設備の点検と 保守・改修の 年間計画  B	不備が生じた箇所の補修 園舎周りの排水管修理	テラスの欠陥、木製になったため節が開いたところやひび割れのところの修理を適宜にした。雨季には地下倉庫の床部分に水がたまり吸出してはまたたまるということは少なくなった。
	実施したい 改修工事等  A	床下への水の侵入防止工事	排水工事を行った。
省エネルギーの取組	教職員の意識 及び実践  B	電気、水道の節約。昨年度の費用を伝えることで高い意識を持てるようにしていく。消耗品の節約。在庫のチェックと整理整頓をこころがけ、不必要なものは購入しない。教材研究をし、材質や大きさをよく吟味する。	季節を通じて電気の節約には注意を向けるようまた特に夏期には水道の節約にも声掛けをしているが実際どのくらい使っているかという認識をした。冬期（11月から3月）の弁当保温器は1クラス35名ほどの分を暖めることができるもので学年で合同に使うなどの工夫も考えた。省エネは小さいことからの積み重ねであることを共通に理解し、高い意識を持って行動する。園児へのSDGs関連の指導と共に。

### 第3者評価(2024年度保護者の会会長)今 絵理香様

自身の子どもの入園の決め手となった「教職員の子どもたちに対する愛情、意識の高さ」が在園中にさらに深く感じられ、園の一番の魅力であると思う。静の時間(お祈り、製作等)と同の時間(自由遊び、歌等)のメリハリがちょうどいいバランスで、子どもたちの穏やかな心、元気な心を育てている。また、五感を大切に教育に力を入れ、様々なイベントや体験を日常の教育に取り入れていることも印象的である。今後も穏やかで躍動感にあふれた教育に期待したい。



(5)前年度の決算に対する監事の監査報告書

# 監査報告書

令和7年5月21日

学校法人 育英学院  
理事長 殿  
理事会 御中  
評議員会 御中

学校法人 育英学院

監事 前田 崇史   
監事 菅野 正一 

私たちは、私立学校法第37条第3項に基づく監査報告を行うため、学校法人育英学院の寄附行為第15条の規定に従い、学校法人育英学院の令和6年度(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)の、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、私たちが必要と認めた監査手続きを実施した。

監査の結果、学校法人の業務若しくは財産の状況又は理事の業務執行の状況に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実のないことを認める。

以上

# 独立監査人の監査報告書

令和7年5月29日

学校法人育英学院

理事会 御中

太陽有限責任監査法人

東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

八代輝雄

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士

島津慎一郎

## 監査意見

当監査法人は、私立学校振興助成法第14条第3項（令和2年4月1日施行）の規定に基づく監査報告を行うため、平成27年3月30日付け文部科学省告示第73号に基づき、学校法人育英学院の令和6年度（令和6年4月1日から令和7年3月31日まで）の計算書類、すなわち資金収支計算書（人件費支出内訳表を含む。）、事業活動収支計算書、貸借対照表（固定資産明細表、借入金明細表及び基本金明細表を含む。）、重要な会計方針及びその他の注記について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類が、学校法人会計基準（昭和46年文部省令第18号）に準拠して、学校法人育英学院の令和7年3月31日をもって終了する会計年度の経営の状況及び同日現在の財政状態を全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、学校法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## その他の記載内容

その他の記載内容は、平成27年3月30日付け文部科学省告示第73号に基づく貸借対照表、収支計算書その他の財務計算に関する書類に含まれる情報のうち、計算書類及びその監査報告書以外の情報である。理事者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監事の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における理事の業務執行の状況を監視することにある。

当監査法人の計算書類に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、その他の記載内容と計算書類又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第 18 号）に準拠して計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類を作成するに当たり、理事者は、継続法人の前提に基づき計算書類を作成することが適切であるかどうかを評価し、継続法人に関する事項を記載する必要があると判断した場合には、当該事項を記載する。

監事の責任は、学校法人の財務報告プロセスの整備及び運用における理事の業務執行の状況を監視することにある。

#### 計算書類の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続法人を前提として計算書類を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続法人の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続法人の前提に関する注記が付されている場合は、監査報告書において計算書類の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類の注記事項が適切でない場合は、計算書類に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、学校法人は継続法人として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類の表示及び注記事項が、学校法人会計基準（昭和 46 年文部省令第 18 号）に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類の表示、構成及び内容、並びに計算書類が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

#### 利害関係

学校法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上